

平成28年度

栃木県政世論調査

調査報告書（概要版）

平成28年10月

栃木県

目 次

I	調査の概要	1
II	調査の結果	2
1	暮らしの変化について	
	(1) 暮らしの変化	2
	(1-1) 暮らしが悪くなった理由	3
	(2) 暮らしの満足度	4
	(3) 今後の暮らしの状況	5
	(4) 今後の暮らしで力を入れる点	6
2	県政への要望について	
	(1) 県政への要望	7
3	日常生活について	
	(1) 文化・芸術活動について	9
	(2) スポーツ活動について	10
	(3) 住んでいる地域について	11
4	社会貢献活動について	
	(1) 社会貢献活動の参加状況	12
5	地域防災について	
	(1) 日頃最も不安に思う災害	13
	(2) 災害に対する備え	14
	(3) 地域の指定避難所・指定緊急避難場所の認知度	15
	(4) 防災訓練の参加状況	16
	(4-1) 参加したことがある防災訓練	17
	(4-2) 防災訓練に参加したことがない理由・今後参加したいと思わない理由	18
	(5) 災害が発生したときなどの緊急時の情報入手手段	19
	(6) 災害ボランティア活動をする上で重要なこと	20
6	広報活動について	
	(1) 県の事業や催し、案内などの情報入手手段	21
	(2) 「とちぎ県民だより」で知りたい県の情報	22
	(3) テレビやラジオで知りたい県の情報	23
	(4) インターネットで知りたい県の情報	24
7	男女平等意識について	
	(1) 男女の地位の平等感	25
	(2) 男女平等な社会を推進していくための県の取組	26
8	とちぎの元気な森づくり県民税について	
	(1) 重要と考える森林の働き	27
	(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の認知度	28

9 産業廃棄物処理施設について	
（1）廃棄物処理施設を見学した経験	29
（2）「産業廃棄物処理施設」のイメージ	30
（3）産業廃棄物処理施設を知るために県に求めること	31
（4）近隣の産業廃棄物処理施設についての考え	32
10 とちぎのがん対策等について	
（1）がんについて知っていること	33
（2）がん検診を受診しない人が多い理由	34
（3）緩和ケアを実施するべきだと思う患者の状態	35
（4）がんの治療・検査のために通院しながら働き続ける社会の環境	36
（4-1）がんの治療・検査のために通院しながら働き続けるための妨げになること	37
（5）県のがん対策で重要だと思うこと	38
11 食の安全・安心について	
（1）食品の安全性に対する不安	39
（1-1）食品の安全性について不安に思うもの	40
12 とちぎの伝統工芸品について	
（1）県内の伝統工芸品で知っているもの	41
（2）結城紬を着た経験・結城紬を着たいと思うか	42
（3）どのような条件であれば結城紬を購入したいか	43
（4）益子焼を使った経験・益子焼を使いたいと思うか	44
（5）どのような条件であれば益子焼を購入したいか	45
13 食に関する意識と実践について	
（1）食事の際「いただきます」を言っているか	46
（2）農業体験をした経験	47
14 犯罪と治安対策について	
（1）県内の治安状況	48
（2）不安を感じる犯罪	49
（2-1）子どもに対する犯罪に不安を感じる理由	50
（3）交通事故を抑止するための対策	51

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考に資することを目的とする。

2 調査項目

- | | |
|-----------------|------------------------|
| (1) 暮らしの変化について* | (8) とちぎの元気な森づくり県民税について |
| (2) 県政への要望について* | (9) 産業廃棄物処理施設について |
| (3) 日常生活について | (10) とちぎのがん対策等について |
| (4) 社会貢献活動について | (11) 食の安全・安心について |
| (5) 地域防災について | (12) とちぎの伝統工芸品について |
| (6) 広報活動について | (13) 食に関する意識と実践について |
| (7) 男女平等意識について | (14) 犯罪と治安対策について |

(*印は時系列調査)

3 調査設計

- | | |
|----------|------------------|
| (1) 調査地域 | 栃木県全域 |
| (2) 調査対象 | 満20歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 2,000 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送法（郵送配布－郵送回収） |
| (6) 調査時期 | 平成28年5月23日～6月14日 |

4 調査機関

株式会社エスピー研

5 回収結果

回収数（率） 1,373（68.7%）

6 報告書の見方

- (1) 各調査項目について、全体、性別、性／年齢別及び過去の調査結果との比較（一部項目のみ）を掲載した。
- (2) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (3) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (4) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (5) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。

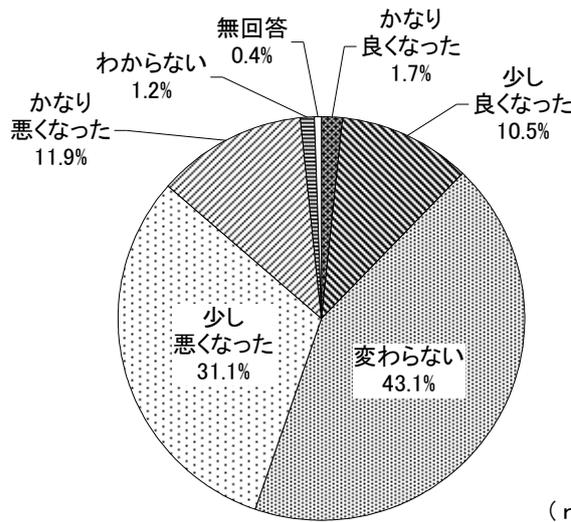
II 調査の結果

1 暮らしの変化について

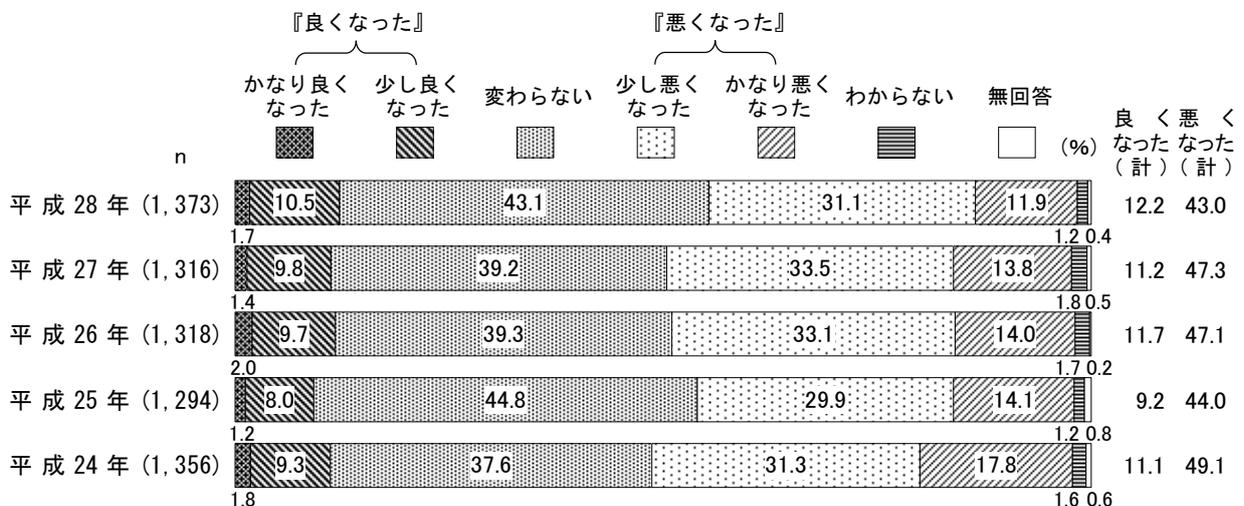
(1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,373]



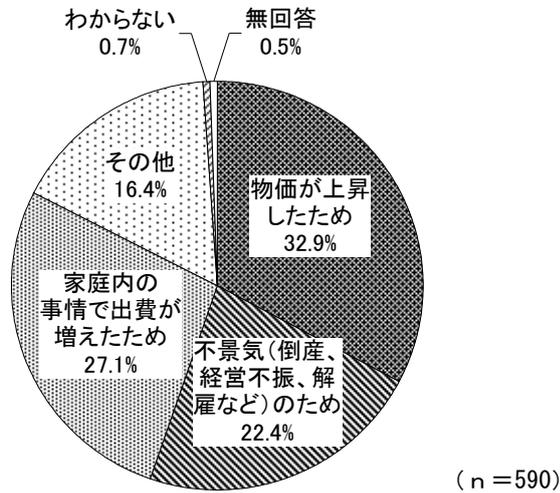
- ・全体で見ると、「かなり良くなった」(1.7%)と「少し良くなった」(10.5%)の2つを合わせた『良くなった』(12.2%)は1割を超えている。「変わらない」(43.1%)と、「少し悪くなった」(31.1%)と「かなり悪くなった」(11.9%)の2つを合わせた『悪くなった』(43.0%)は4割を超えている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、『良くなった』では〈男性20歳代〉が20.3%、〈男性30歳代〉が19.7%、〈女性30歳代〉が19.5%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性65～69歳〉が50.6%、〈男性60～64歳〉が50.0%と高くなっている。



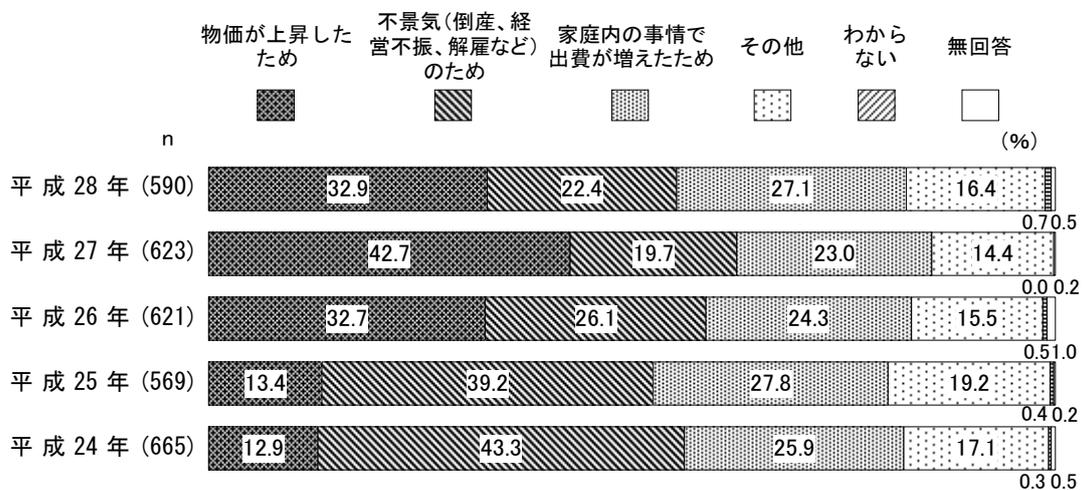
- ・過去の調査結果と比較すると、『悪くなった』が前回(平成27年)より4.3ポイント減少している。一方、「変わらない」が前回(平成27年)より3.9ポイント増加している。

(1-1) 暮らしが悪くなった理由

(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)
 問1-1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。 [n=590]



- 全体で見ると、「物価が上昇したため」(32.9%)が3割を超えて最も高く、次いで「家庭内の事情で出費が増えたため」(27.1%)、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」(22.4%)の順となっている。
- 性別で見ると、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性〉(32.2%)が〈男性〉(22.3%)より9.9ポイント高くなっている。「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈男性〉(24.8%)が〈女性〉(19.1%)より5.7ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「物価が上昇したため」では〈男性70歳以上〉が51.5%、〈女性70歳以上〉が49.3%と高くなっている。「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈男性40歳代〉が36.4%、〈男性30歳代〉が35.7%と高くなっている。「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性30歳代〉が58.6%、〈女性40歳代〉が55.1%と高くなっている。

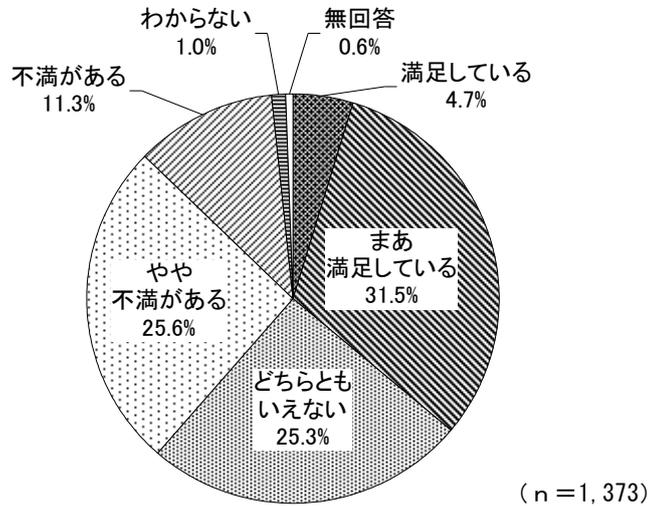


- 過去の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」が前回(平成27年)より9.8ポイント減少している。一方、「家庭内の事情で出費が増えたため」が前回(平成27年)より4.1ポイント増加している。

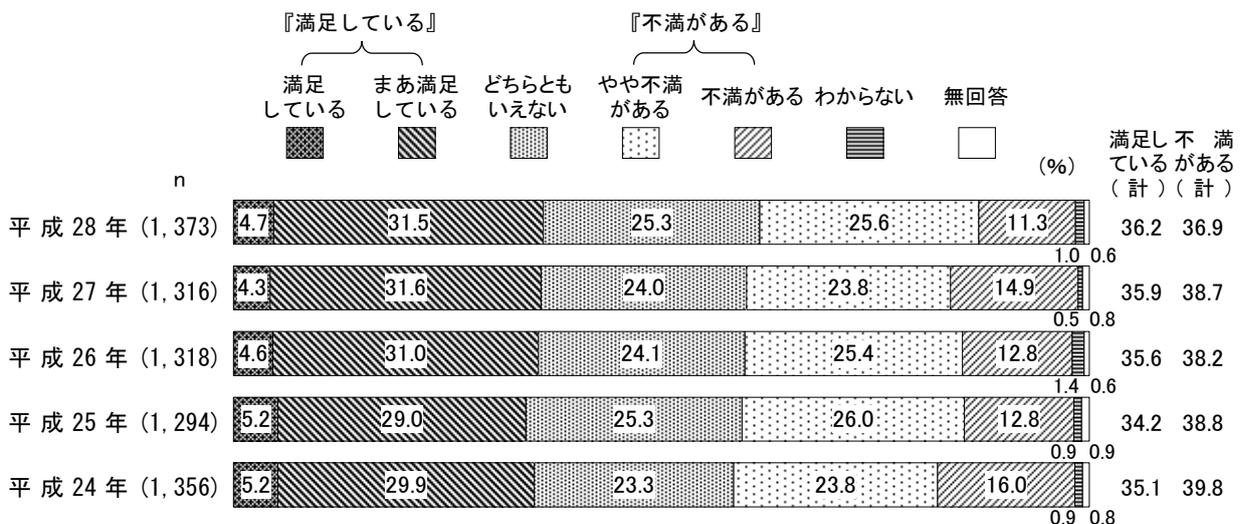
(2) 暮らしの満足度

問2 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,373]



- ・全体で見ると、「満足している」(4.7%)と「まあ満足している」(31.5%)の2つを合わせた『満足している』(36.2%)は3割半ばとなっている。一方、「やや不満がある」(25.6%)と「不満がある」(11.3%)の2つを合わせた『不満がある』(36.9%)は4割近くとなっている。
- ・性別で見ると、『満足している』では〈女性〉(38.5%)が〈男性〉(33.8%)より4.7ポイント高くなっている。一方、『不満がある』では〈男性〉(39.5%)が〈女性〉(34.6%)より4.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『満足している』では〈女性40歳代〉が45.2%、〈女性30歳代〉が44.5%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈男性60～64歳〉が51.2%と高くなっている。

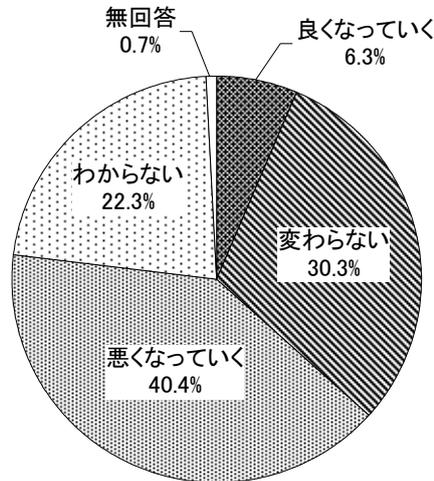


- ・過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。

(3) 今後の暮らしの状況

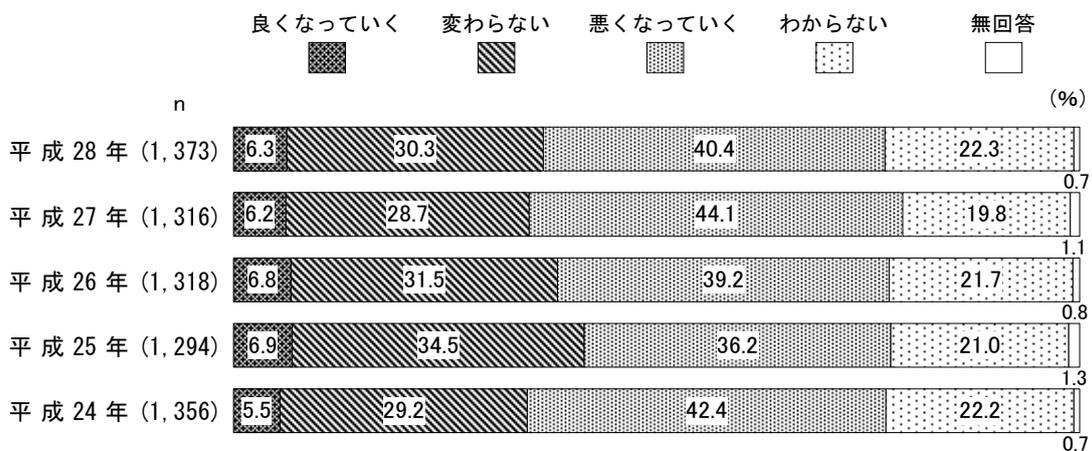
問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,373]



(n=1,373)

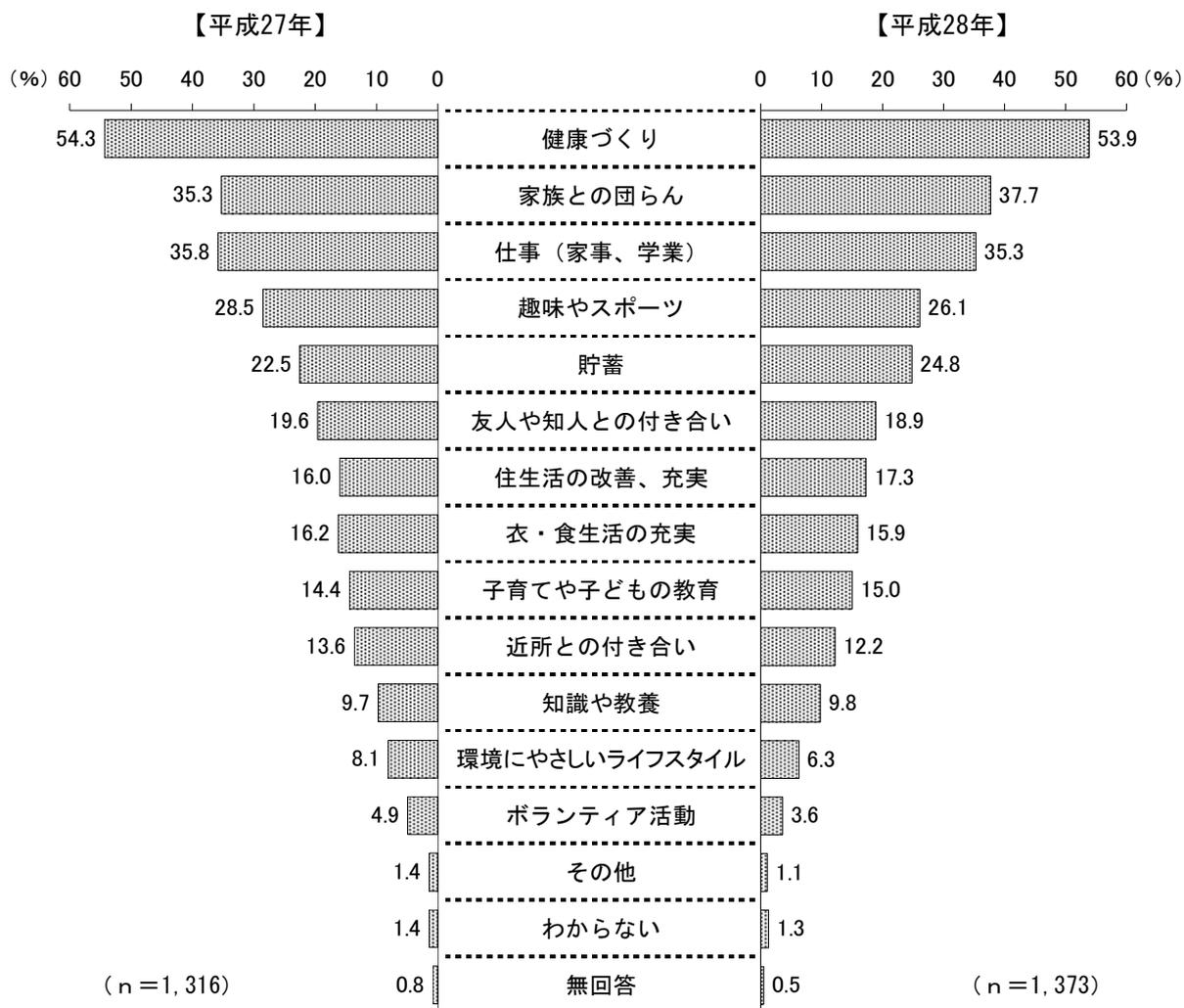
- ・全体で見ると、「良くなっていく」(6.3%)は1割に満たない。「変わらない」(30.3%)は3割で、「悪くなっていく」(40.4%)は4割となっている。
- ・性別で見ると、「悪くなっていく」では〈男性〉(43.2%)が〈女性〉(38.1%)より5.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈男性20歳代〉が16.9%、〈女性20歳代〉が15.4%、〈男性30歳代〉が15.2%と高くなっている。「変わらない」では〈女性70歳以上〉が38.2%、〈男性70歳以上〉が38.0%と高くなっている。「悪くなっていく」では〈男性65～69歳〉が56.3%、〈女性65～69歳〉が55.7%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、「悪くなっていく」が前回(平成27年)より3.7ポイント減少している。

(4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。 [n=1,373]

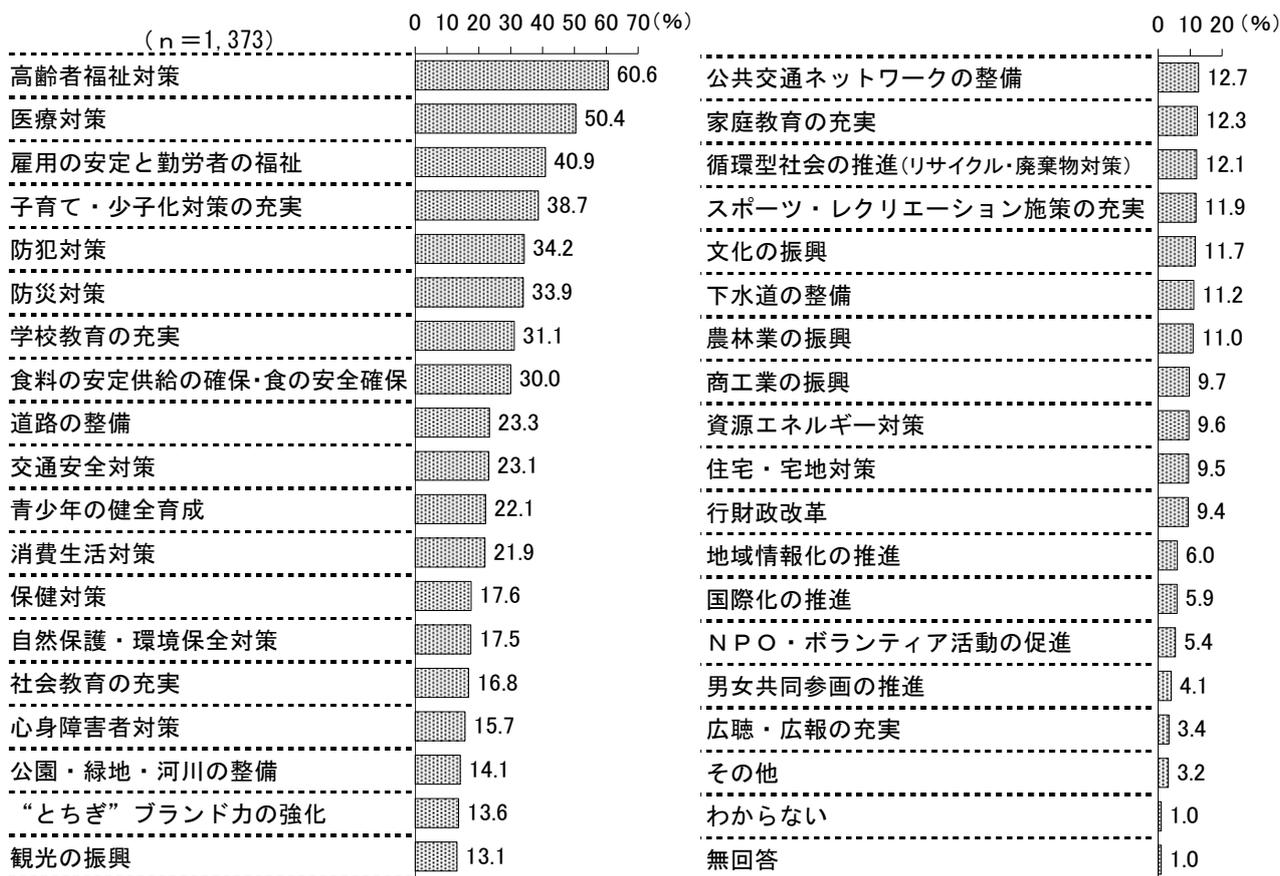


- ・全体で見ると、「健康づくり」(53.9%)が5割を超えて最も高く、次いで「家族との団らん」(37.7%)、「仕事(家事、学業)」(35.3%)、「趣味やスポーツ」(26.1%)、「貯蓄」(24.8%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(32.8%)が〈女性〉(20.1%)より12.7ポイント高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性〉(39.6%)が〈女性〉(31.1%)より8.5ポイント高くなっている。「貯蓄」では〈女性〉(28.5%)が〈男性〉(20.3%)より8.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「健康づくり」では〈女性60～64歳〉以上の年代がそれぞれ7割台と高くなっている。「家族との団らん」では〈女性30歳代〉が58.3%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性40歳代〉以下の年代と〈女性20歳代〉がそれぞれ6割台と高くなっている。「貯蓄」では〈女性30歳代〉が55.6%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が62.5%と高くなっている。「近所との付き合い」では〈女性70歳以上〉が34.1%と高くなっている。
- ・前回(平成27年)の調査結果と比較すると、「家族との団らん」が2.4ポイント、「貯蓄」が2.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「趣味やスポーツ」が2.4ポイント減少している。

2 県政への要望について

(1) 県政への要望

問5 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な “とちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,373]



- ・全体で見ると、「高齢者福祉対策」(60.6%)がほぼ6割で最も高く、次いで「医療対策」(50.4%)、「雇用の安定と勤労者の福祉」(40.9%)、「子育て・少子化対策の充実」(38.7%)、「防犯対策」(34.2%)、「防災対策」(33.9%)、「学校教育の充実」(31.1%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(30.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性〉(35.7%)が〈男性〉(24.1%)より11.6ポイント高くなっている。「医療対策」では〈女性〉(54.5%)が〈男性〉(46.1%)より8.4ポイント高くなっている。「道路の整備」では〈男性〉(27.7%)が〈女性〉(19.3%)より8.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「高齢者福祉対策」では〈男性70歳以上〉が77.2%、〈女性70歳以上〉が74.0%と高くなっている。「医療対策」では〈女性50歳代〉が60.8%と高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈男性50歳代〉が56.3%、〈女性20歳代〉が55.8%と高くなっている。「子育て・少子化対策の充実」では〈女性30歳代〉が79.2%と高くなっている。「学校教育の充実」では〈女性30歳代〉が68.1%と高くなっている。

[過去の調査結果]

(上位5項目)

順位 年	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
平成28年	高齢者福祉対策 60.6%	医療対策 50.4%	雇用の安定と勤労者 の福祉 40.9%	子育て・少子化対策 の充実 38.7%	防犯対策 34.2%
平成27年	高齢者福祉対策 59.7%	医療対策 50.5%	雇用の安定と勤労者 の福祉 41.7%	消費生活の安定 38.5%	子育て・少子化対策 の充実 36.9%
平成26年	高齢者福祉対策 57.6%	医療対策 51.7%	雇用の安定と勤労者 の福祉 45.4%	消費生活の安定 38.0%	子育て・少子化対策 の充実 35.8%
平成25年	高齢者福祉対策 58.0%	医療対策 54.9%	雇用の安定と勤労者 の福祉 46.6%	子育て・少子化対策 の充実 35.5%	学校教育の充実 35.1%
平成24年	高齢者福祉対策 55.8%	医療対策 52.9%	雇用の安定と勤労者 の福祉 48.7%	消費生活の安定 38.1%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 37.8%
平成23年	高齢者福祉対策 57.0%	医療対策 54.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 50.0%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 35.2%	消費生活の安定 35.0%
平成22年	高齢者福祉対策 62.1%	医療対策 57.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 53.3%	消費生活の安定 36.4%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 34.5%
平成21年	医療対策 65.1%	高齢者福祉対策 62.8%	雇用の安定と勤労者 の福祉 47.3%	消費生活の安定 41.6%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 37.5%
平成20年	高齢者福祉対策 62.9%	医療対策 60.7%	消費生活の安定 44.3%	食料の安定供給 の確保 41.6%	防犯対策 39.2%
平成19年	高齢者福祉対策 62.6%	医療対策 57.6%	防犯対策 36.3%	雇用の安定と勤労者 の福祉 35.8%	学校教育の充実 35.6%
平成18年	高齢者福祉対策 55.2%	医療対策 51.4%	防犯対策 40.3%	子育て・少子化対策 の充実 37.2%	雇用の安定と勤労者 の福祉 36.8%
平成17年	高齢者福祉対策 56.3%	医療対策 51.0%	防犯対策 43.6%	青少年の健全 育成 37.9%	雇用の安定と勤労者 の福祉 37.6%
平成16年	高齢者福祉対策 55.1%	医療対策 45.6%	雇用の安定と勤労者 の福祉 39.7%	防犯対策 35.9%	青少年の健全 育成 34.3%
平成15年	高齢者福祉対策 55.6%	医療対策 46.7%	雇用の安定と勤労者 の福祉 41.5%	青少年の健全育成／防犯対策 34.1%	
平成14年	高齢者福祉対策 57.1%	医療対策 48.3%	雇用の安定と勤労者 の福祉 41.7%	青少年の健全 育成 34.5%	廃棄物の処理 対策 32.7%

※平成20年以前では「食料の安定供給の確保・食の安全確保」は「食料の安定供給の確保」としていた。

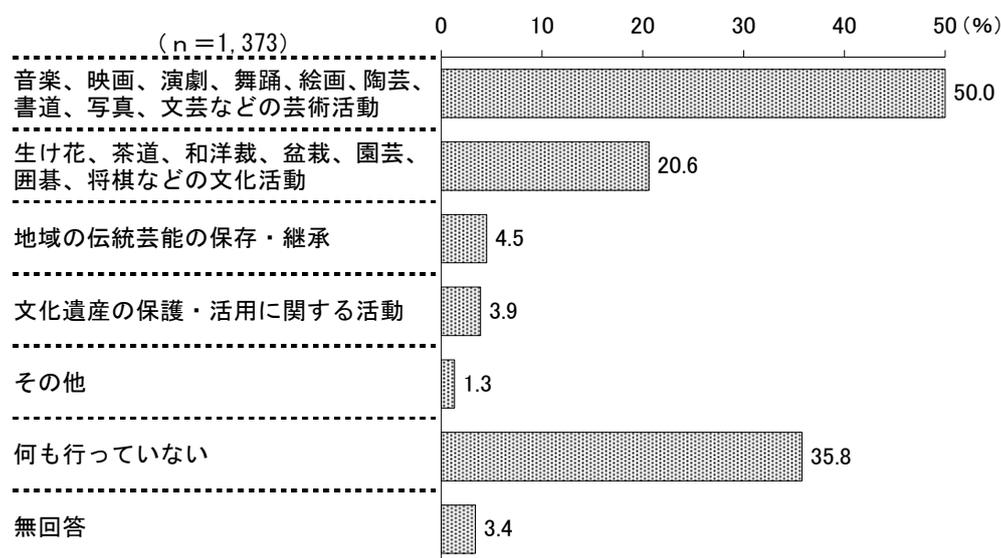
※平成27年以前の「消費生活の安定」は、平成28年は「消費生活対策」としている。

- ・上位5項目を過去の調査結果と比較すると、上位3項目は平成22年以降同じ順位となっている。

3 日常生活について

(1) 文化・芸術活動について

問6 あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,373]



- ・全体で見ると、「音楽、映画、演劇、舞踊、絵画、陶芸、書道、写真、文芸などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」(50.0%)が5割で最も高く、次いで「生け花、茶道、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」(20.6%)がほぼ2割となっている。一方、「何も行っていない」(35.8%)は3割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、『文化活動』では〈女性〉(24.5%)が〈男性〉(16.9%)より7.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『芸術活動』では〈女性20歳代〉が71.2%、〈女性30歳代〉が62.5%、〈男性30歳代〉が62.1%と高くなっている。『文化活動』では〈女性70歳以上〉が39.9%、〈男性70歳以上〉が32.9%と高くなっている。「何も行っていない」では〈男性50歳代〉が46.6%と高くなっている。

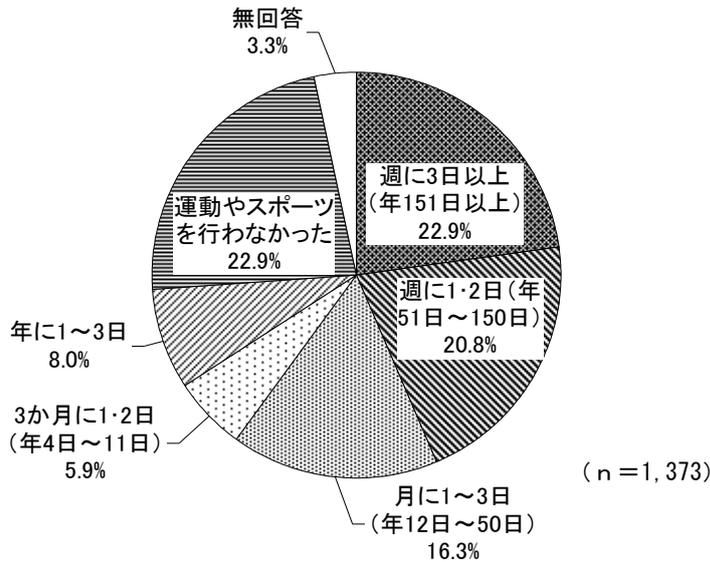
(2) スポーツ活動について

問7 あなたは、この1年間にどの程度運動やスポーツ(※)を行いましたか。

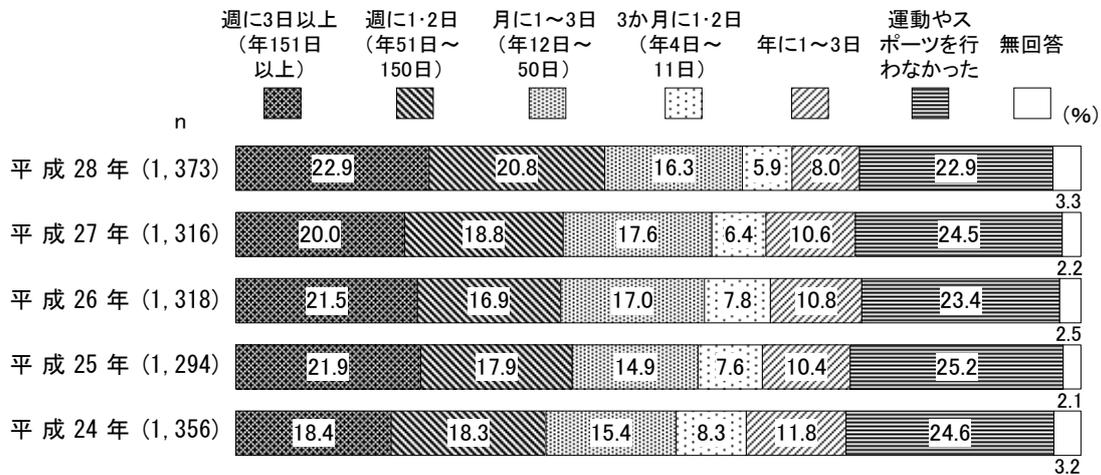
次の中から1つ選んでください。

[n=1,373]

※ 運動やスポーツには、ウォーキング(歩け歩け運動、散歩などを含む)、ジョギング、体操(ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びを含む)、室内運動器具を使ってする運動、ニュースポーツ(ゲートボール、グラウンドゴルフ、インディアカなどを含む)、登山、ゴルフ、釣り、サイクリングなどを含みます。



- ・全体で見ると、「週に3日以上(年151日以上)」(22.9%)は2割を超えている。「週に1・2日(年51日～150日)」(20.8%)はほぼ2割で、「月に1～3日(年12日～50日)」(16.3%)は1割半ばとなっている。一方、「運動やスポーツを行わなかった」(22.9%)は2割を超えている。
- ・性別で見ると、「月に1～3日(年12日～50日)」では〈男性〉(18.9%)が〈女性〉(14.0%)より4.9ポイント高くなっている。「運動やスポーツを行わなかった」では〈女性〉(25.4%)が〈男性〉(20.0%)より5.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「週に3日以上(年151日以上)」では〈男性70歳以上〉が40.5%と高くなっている。「運動やスポーツを行わなかった」では〈女性50歳代〉が35.8%と高くなっている。

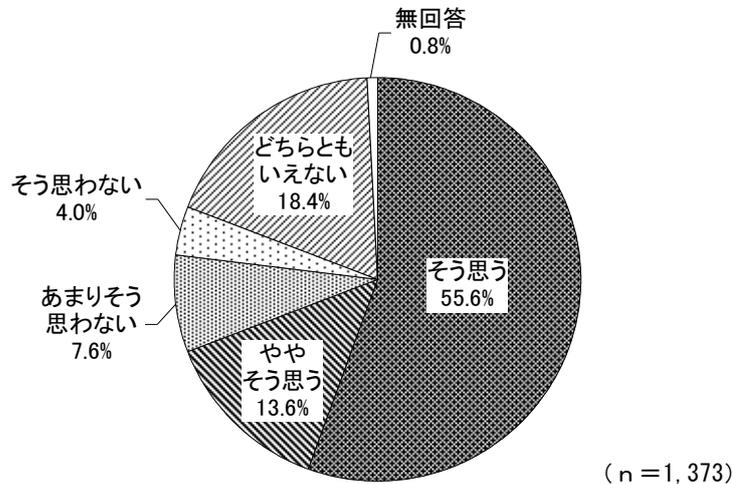


- ・過去の調査結果と比較すると、前回(平成27年)より「週に3日以上(年151日以上)」が2.9ポイント、「週に1・2日(年51日～150日)」が2.0ポイント、それぞれ増加している。

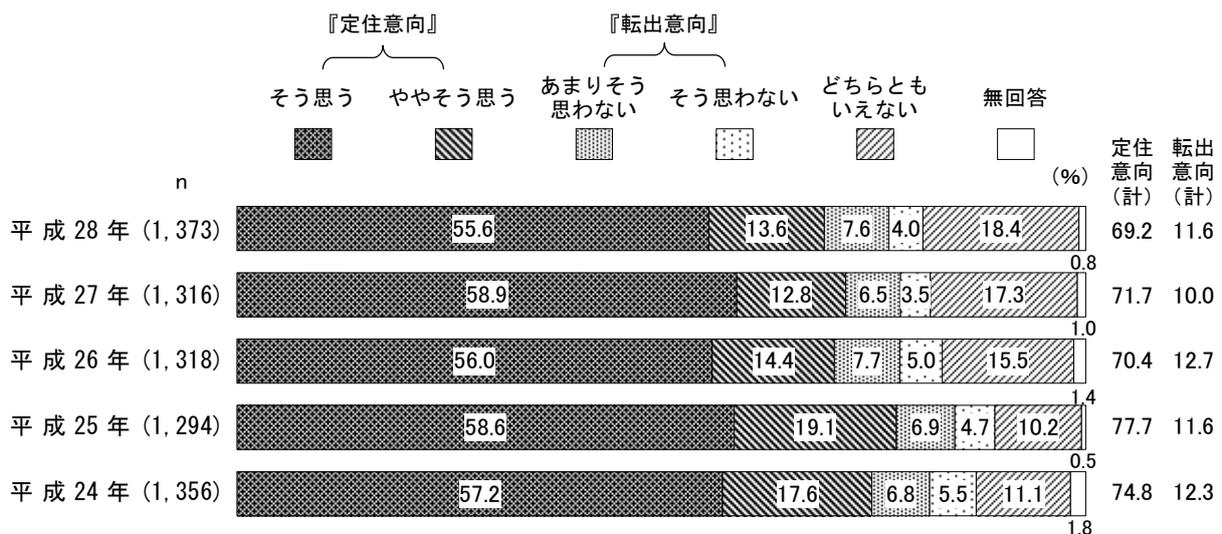
(3) 住んでいる地域について

問8 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,373]



- ・全体で見ると、「そう思う」(55.6%)と「ややそう思う」(13.6%)の2つを合わせた『定住意向』(69.2%)はほぼ7割となっている。一方、「あまりそう思わない」(7.6%)と「そう思わない」(4.0%)の2つを合わせた『転出意向』(11.6%)は1割を超えている。
- ・性別で見ると、『定住意向』では〈男性〉(70.6%)が〈女性〉(67.9%)より2.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『定住意向』では〈男性70歳以上〉が82.3%、〈女性70歳以上〉が78.7%と高くなっている。一方、『転出意向』では〈女性20歳代〉が21.1%と高くなっている。



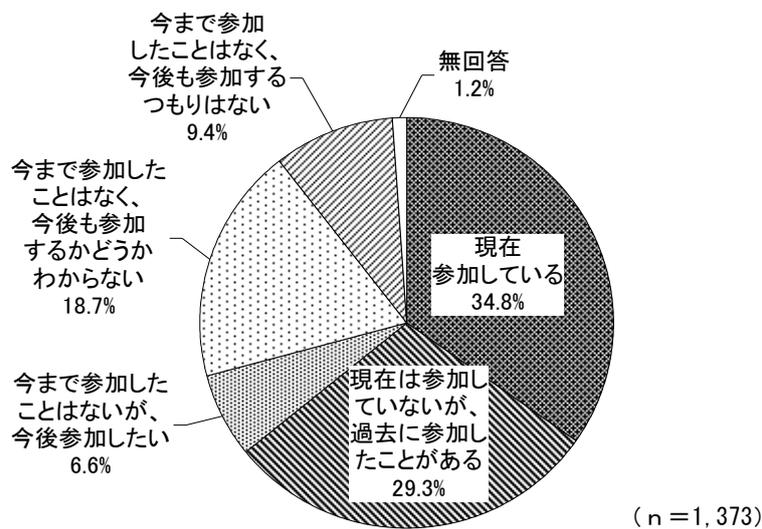
- ・過去の調査結果と比較すると、『定住意向』が前回(平成27年)より2.5ポイント減少している。

4 社会貢献活動について

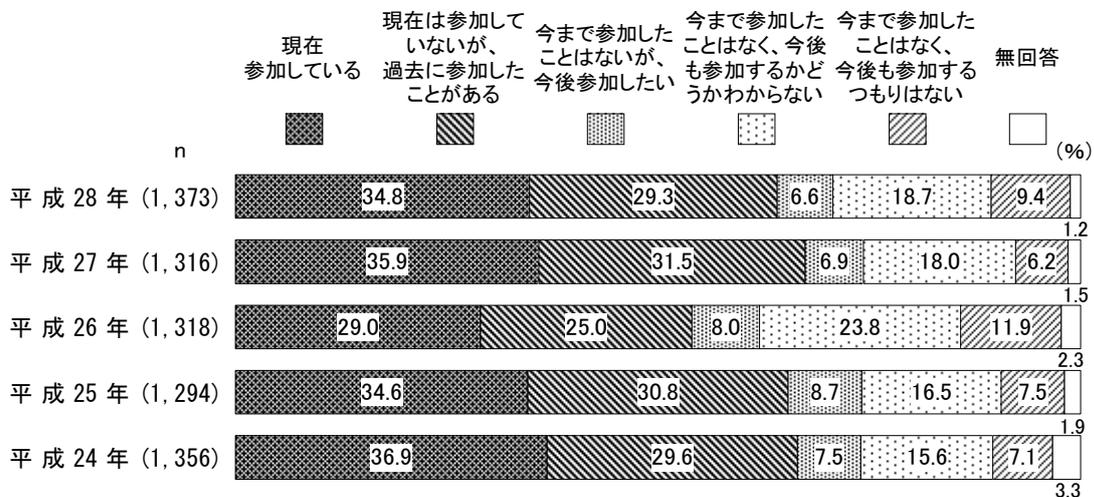
(1) 社会貢献活動の参加状況

問9 あなたは、社会貢献活動（※）に参加したことがありますか。また、参加したことがない方は、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。〔n=1,373〕

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやNPO（非営利活動団体）活動、コミュニティ活動、自治会、育成会等の地域活動などをいいます。



- ・全体で見ると、「現在参加している」(34.8%)は3割半ばとなっている。「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」(29.3%)はほぼ3割で、「今まで参加したことはないが、今後参加するかどうか分からない」(18.7%)は2割近くとなっている。
- ・性別で見ると、「現在参加している」では〈女性〉(37.2%)が〈男性〉(31.9%)より5.3ポイント高くなっている。「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」では〈女性〉(32.0%)が〈男性〉(27.1%)より4.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「現在参加している」では〈女性40歳代〉が49.6%と高くなっている。「今まで参加したことはないが、今後参加するかどうか分からない」では〈女性20歳代〉が34.6%と高くなっている。「今まで参加したことはないが、今後参加するつもりはない」では〈男性20歳代〉が20.3%、〈男性30歳代〉が18.2%と高くなっている。



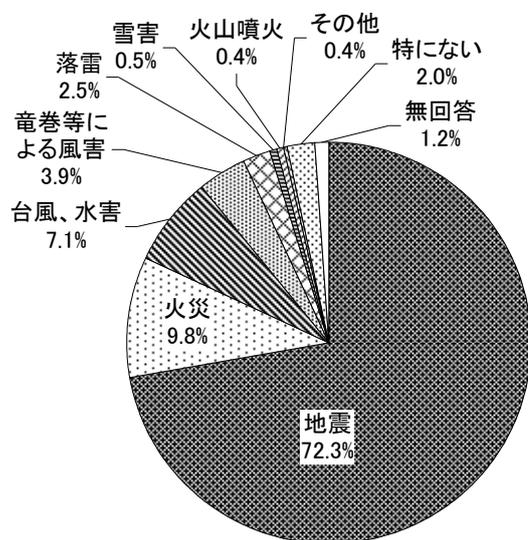
- ・過去の調査結果と比較すると、「今まで参加したことはないが、今後参加するつもりはない」が前回(平成27年)より3.2ポイント増加している。一方、「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」が前回(平成27年)より2.2ポイント減少している。

5 地域防災について

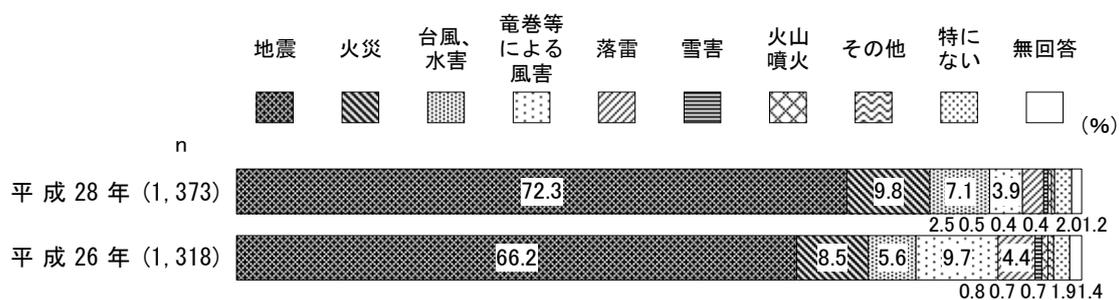
(1) 日頃最も不安に思う災害

問10 あなたが、日ごろ最も不安に思う災害はどのようなものですか。
次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 373]



- ・全体で見ると、「地震」(72.3%)が7割を超えて最も高く、次いで「火災」(9.8%)、「台風、水害」(7.1%)、「竜巻等による風害」(3.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「地震」では〈女性〉(73.9%)が〈男性〉(69.8%)より4.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「地震」では〈男性20歳代〉が83.1%と高くなっている。「火災」では〈男性70歳以上〉が15.2%と高くなっている。



- ・平成26年の調査結果と比較すると、「地震」が6.1ポイント増加している。一方、「竜巻等による風害」が5.8ポイント減少している。

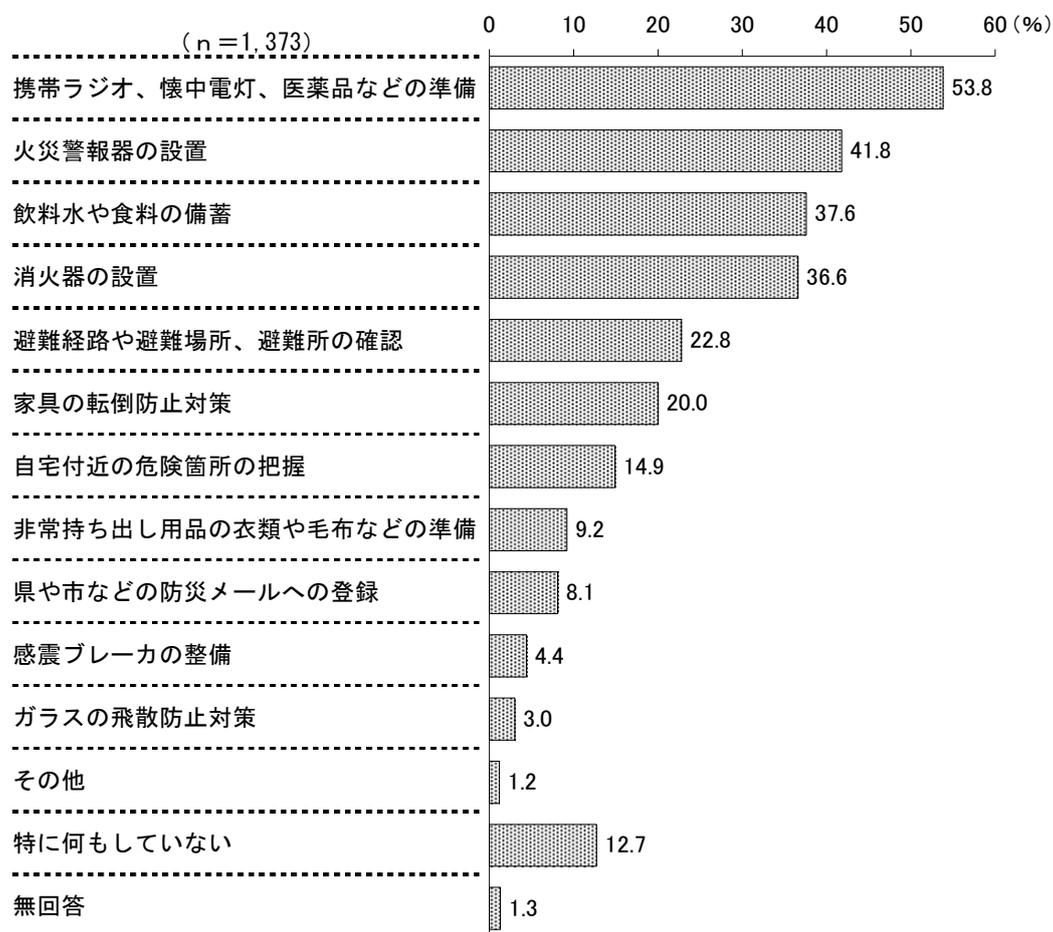
(2) 災害に対する備え

問11 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,373]

※ 感震ブレーカとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に、配線用ブレーカ又は漏電ブレーカ等を遮断する器具をいいます。

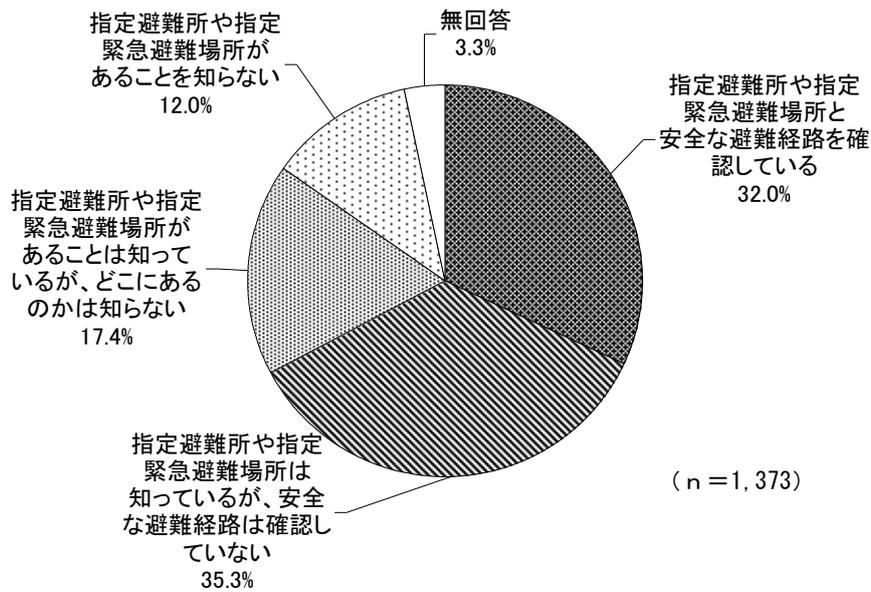


- ・全体で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」(53.8%)が5割を超えて最も高く、次いで「火災警報器の設置」(41.8%)、「飲料水や食料の備蓄」(37.6%)、「消火器の設置」(36.6%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性〉(26.2%)が〈男性〉(19.2%)より7.0ポイント高くなっている。「飲料水や食料の備蓄」では〈女性〉(40.4%)が〈男性〉(34.8%)より5.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈女性65～69歳〉が68.0%と高くなっている。「火災警報器の設置」では〈男性70歳以上〉と〈女性60～64歳〉がともに50.0%と高くなっている。「飲料水や食料の備蓄」では〈女性60～64歳〉が54.2%と高くなっている。「消火器の設置」では〈男性65～69歳〉が50.0%と高くなっている。

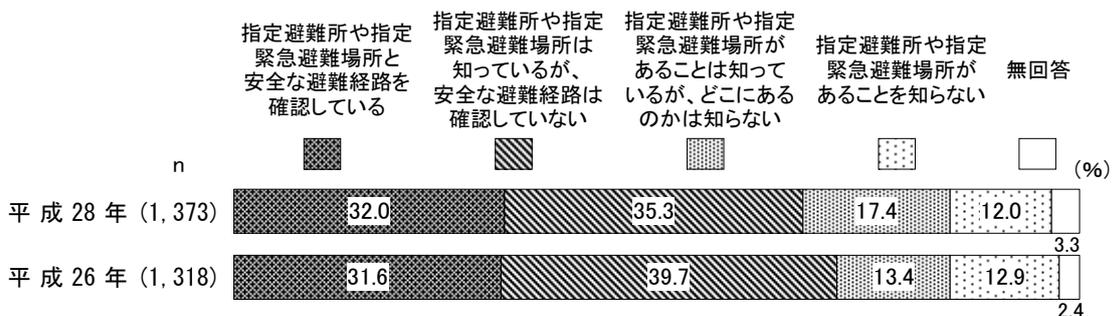
(3) 地域の指定避難所・指定緊急避難場所の認知度

問12 あなたは、お住まいの地域の指定避難所（※1）や指定緊急避難場所（※2）についてどの程度知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,373]

- ※1 指定避難所とは、災害の危険性があり避難した住民等や、災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させるための施設をいいます。
 ※2 指定緊急避難場所とは、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合に、その危険から逃れるための避難場所として、災害の種類ごとに指定された施設又は場所をいいます。



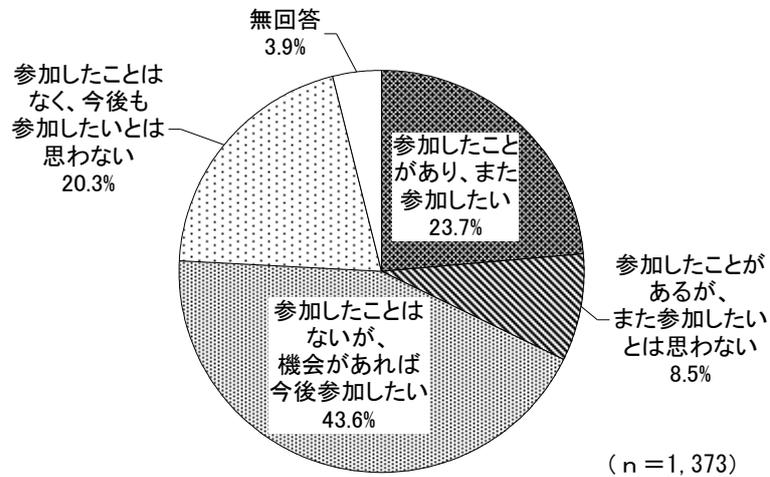
- 全体で見ると、「指定避難所や指定緊急避難場所と安全な避難経路を確認している」(32.0%)は3割を超えている。「指定避難所や指定緊急避難場所は知っているが、安全な避難経路は確認していない」(35.3%)は3割半ばで、「指定避難所や指定緊急避難場所があることは知っているが、どこにあるのかは知らない」(17.4%)は2割近く、「指定避難所や指定緊急避難場所があることを知らない」(12.0%)は1割を超えている。
- 性別で見ると、「指定避難所や指定緊急避難場所と安全な避難経路を確認している」では〈男性〉(35.4%)が〈女性〉(29.1%)より6.3ポイント高くなっている。「指定避難所や指定緊急避難場所は知っているが、安全な避難経路は確認していない」では〈女性〉(38.8%)が〈男性〉(31.7%)より7.1ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「指定避難所や指定緊急避難場所と安全な避難経路を確認している」では〈男性70歳以上〉が54.4%と高くなっている。「指定避難所や指定緊急避難場所があることは知っているが、どこにあるのかは知らない」では〈女性20歳代〉が34.6%と高くなっている。



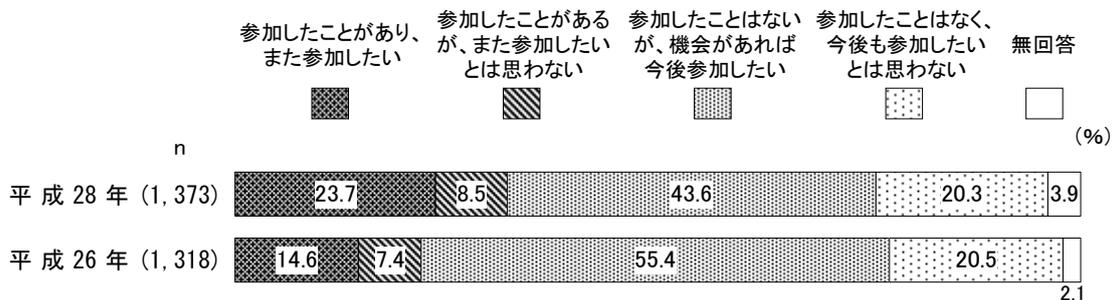
- 平成26年の調査結果と比較すると、「指定避難所や指定緊急避難場所は知っているが、安全な避難経路は確認していない」が4.4ポイント減少している。一方、「指定避難所や指定緊急避難場所があることは知っているが、どこにあるのかは知らない」が4.0ポイント増加している。

(4) 防災訓練の参加状況

問13 あなたは、県や市町、自治会、企業等が行っている防災訓練に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。[n=1,373]



- ・全体で見ると、「参加したことがあります、また参加したい」(23.7%)は2割を超えている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」(43.6%)は4割を超えており、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」(20.3%)は2割となっている。
- ・性別で見ると、「参加したことがあります、また参加したい」では〈男性〉(28.2%)が〈女性〉(19.3%)より8.9ポイント高くなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性〉(49.6%)が〈男性〉(37.0%)より12.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「参加したことがあります、また参加したい」では〈男性65～69歳〉が37.5%と高くなっている。「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」では〈男性20歳代〉が40.7%と高くなっている。



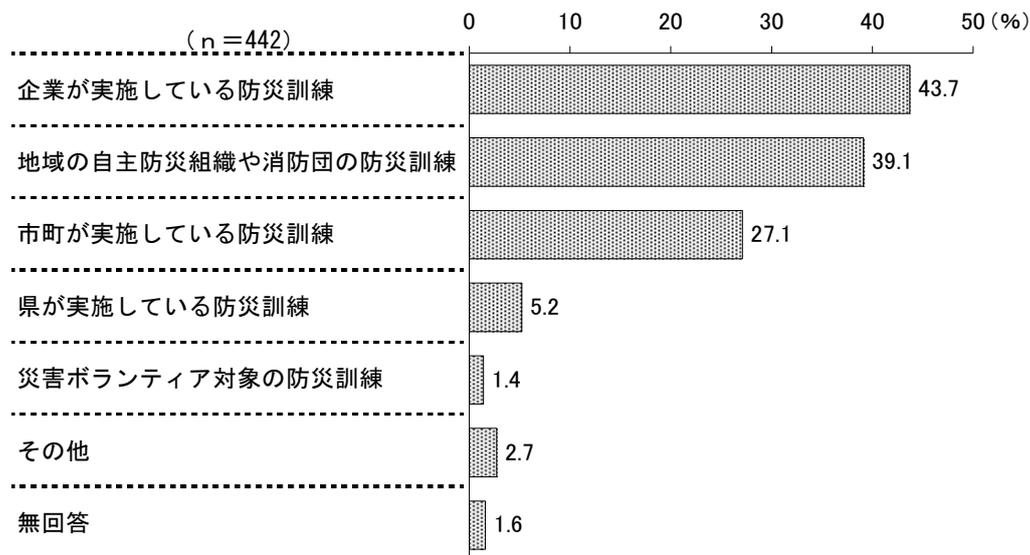
- ・平成26年の調査結果と比較すると、「参加したことがあります、また参加したい」が9.1ポイント増加している。一方、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」が11.8ポイント減少している。

(4-1) 参加したことがある防災訓練

(問13で「参加したことがあります、また参加したい」、「参加したことがあるが、また参加したいとは思わない」を選んだ方のみお答えください)

問13-1 あなたは、今までどのような訓練に参加したことがありますか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n=442]



- ・全体で見ると、「企業が実施している防災訓練」(43.7%)が4割を超えて最も高く、次いで「地域の自主防災組織や消防団の防災訓練」(39.1%)、「市町が実施している防災訓練」(27.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「企業が実施している防災訓練」では〈男性〉(49.8%)が〈女性〉(37.4%)より12.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「企業が実施している防災訓練」では〈男性50歳代〉が68.4%と高くなっている。「地域の自主防災組織や消防団の防災訓練」では〈女性60~64歳〉が51.7%、〈女性70歳以上〉が51.3%と高くなっている。「市町が実施している防災訓練」では〈女性70歳以上〉が56.4%と高くなっている。

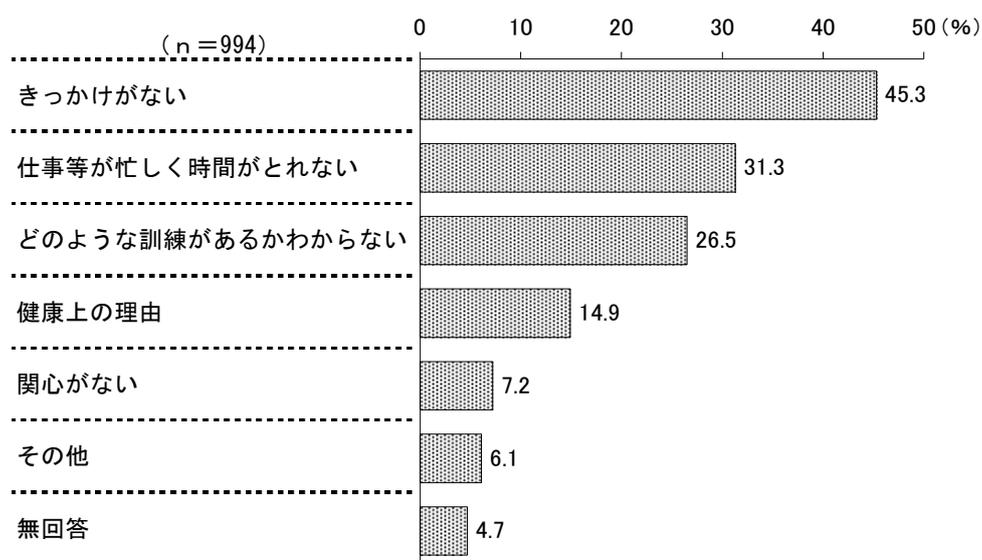
(4-2) 防災訓練に参加したことがない理由・今後参加したいと思わない理由

(問13で「参加したことがあるが、また参加したいとは思わない」、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」を選んだ方のみお答えください)

問13-2 訓練に参加したことがない又は今後参加したいと思わない理由は何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

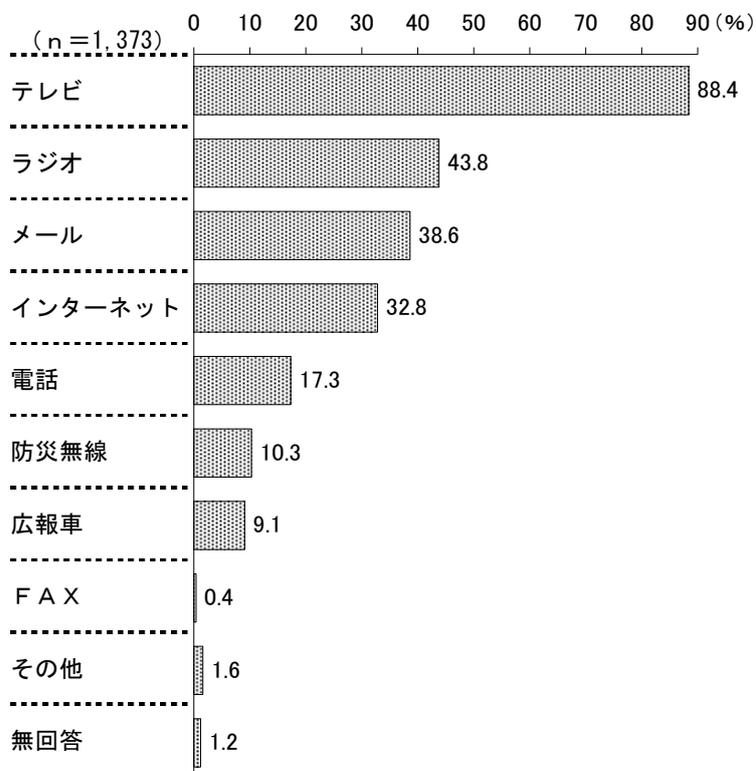
[n=994]



- ・全体で見ると、「きっかけがない」(45.3%)が4割半ばで最も高く、次いで「仕事等が忙しく時間がとれない」(31.3%)、「どのような訓練があるかわからない」(26.5%)、「健康上の理由」(14.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「きっかけがない」では〈女性〉(49.4%)が〈男性〉(39.8%)より9.6ポイント高くなっている。「どのような訓練があるかわからない」では〈女性〉(29.3%)が〈男性〉(22.8%)より6.5ポイント高くなっている。「関心がない」では〈男性〉(10.5%)が〈女性〉(4.5%)より6.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「きっかけがない」では〈女性20歳代〉が66.7%と高くなっている。「仕事等が忙しく時間がとれない」では〈男性20歳代〉が61.7%と高くなっている。「どのような訓練があるかわからない」では〈女性30歳代〉が37.5%、〈男性65~69歳〉が36.7%と高くなっている。「健康上の理由」では〈女性70歳以上〉が45.9%、〈男性70歳以上〉が39.4%と高くなっている。

(5) 災害が発生したときなどの緊急時の情報入手手段

問14 あなたは、災害が発生した際などの緊急時にどのような手段で情報を得ていますか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,373]



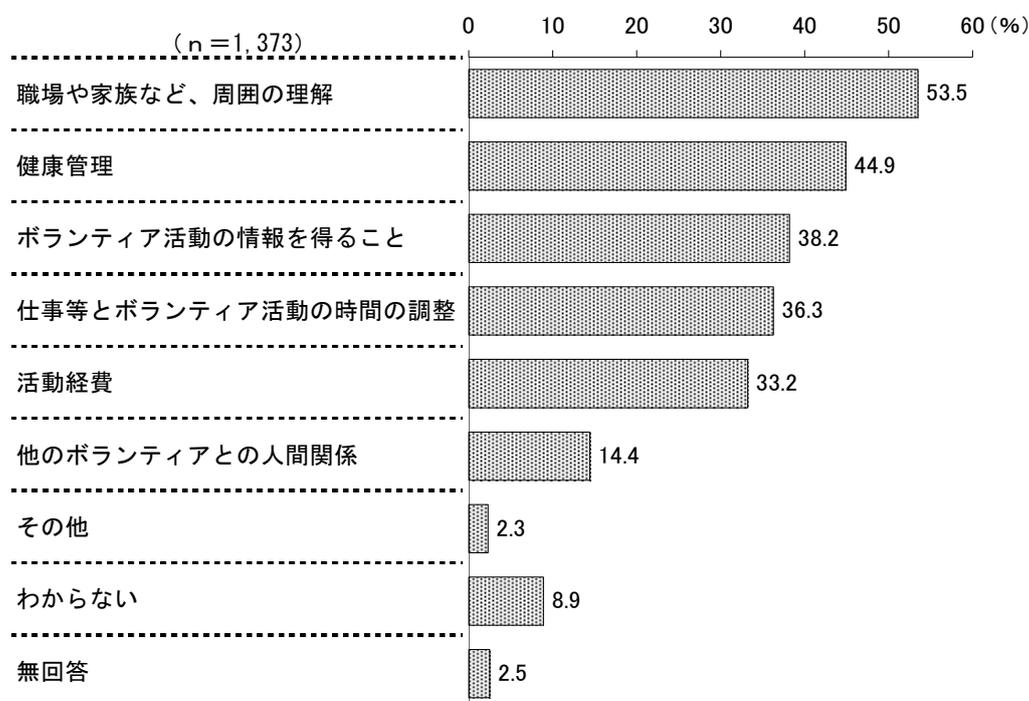
- ・全体で見ると、「テレビ」(88.4%)が9割近くで最も高く、次いで「ラジオ」(43.8%)、「メール」(38.6%)、「インターネット」(32.8%)、「電話」(17.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「ラジオ」では〈男性〉(49.1%)が〈女性〉(38.4%)より10.7ポイント高くなっている。「インターネット」では〈男性〉(36.5%)が〈女性〉(29.7%)より6.8ポイント高くなっている。「メール」では〈女性〉(41.7%)が〈男性〉(35.4%)より6.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「ラジオ」では〈男性60～64歳〉が59.8%と高くなっている。「メール」では〈女性50歳代〉が59.2%、〈女性40歳代〉が59.1%と高くなっている。「インターネット」では〈女性30歳代〉が75.0%と高くなっている。

(6) 災害ボランティア活動をする上で重要なこと

問15 近年、各種災害時において、災害ボランティアの活動が注目されていますが、災害ボランティア活動をする上で重要と思われることは何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,373]

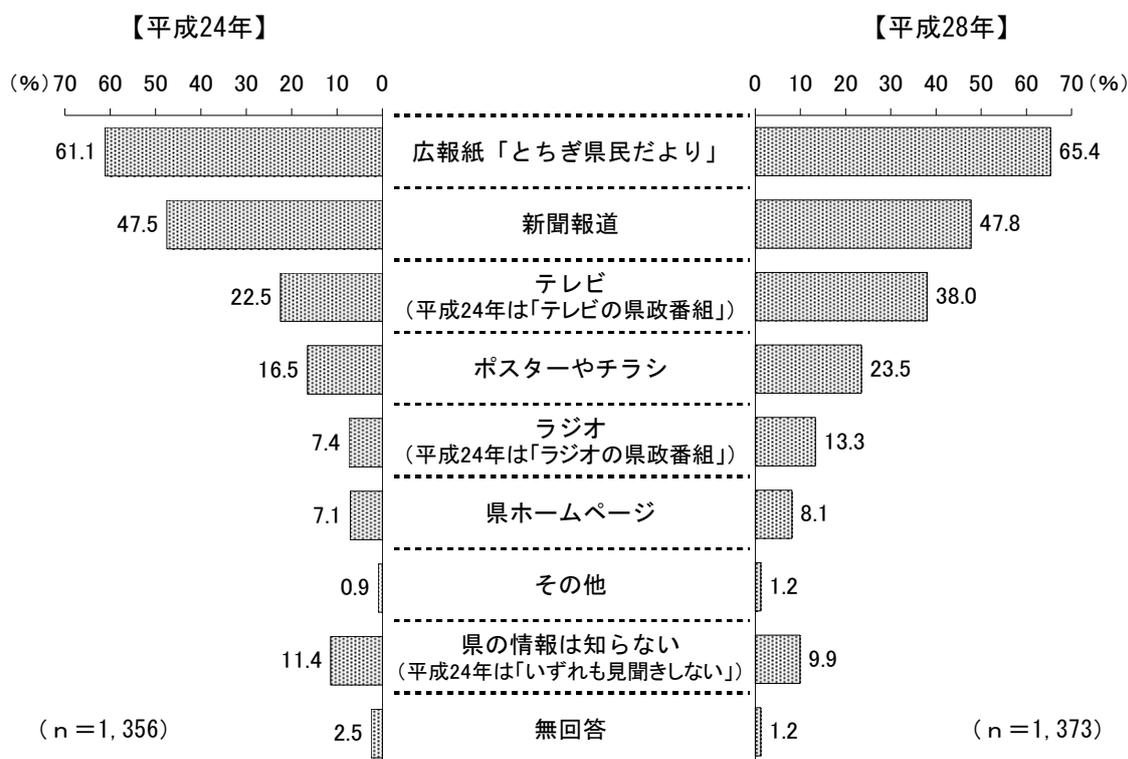


- ・全体で見ると、「職場や家族など、周囲の理解」(53.5%)が5割を超えて最も高く、次いで「健康管理」(44.9%)、「ボランティア活動の情報を得ること」(38.2%)、「仕事等とボランティア活動の時間の調整」(36.3%)、「活動経費」(33.2%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「健康管理」では〈女性〉(50.4%)が〈男性〉(39.0%)より11.4ポイント高くなっている。「ボランティア活動の情報を得ること」では〈女性〉(41.9%)が〈男性〉(34.2%)より7.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「職場や家族など、周囲の理解」では〈女性20歳代〉が67.3%、〈女性30歳代〉が66.7%と高くなっている。「健康管理」では〈女性65～69歳〉が60.8%、〈女性70歳以上〉が60.7%と高くなっている。「ボランティア活動の情報を得ること」では〈女性60～64歳〉が52.8%と高くなっている。「仕事等とボランティア活動の時間の調整」では〈男性50歳代〉が59.2%と高くなっている。「活動経費」では〈男性50歳代〉が46.6%と高くなっている。

6 広報活動について

(1) 県の事業や催し、案内などの情報入手手段

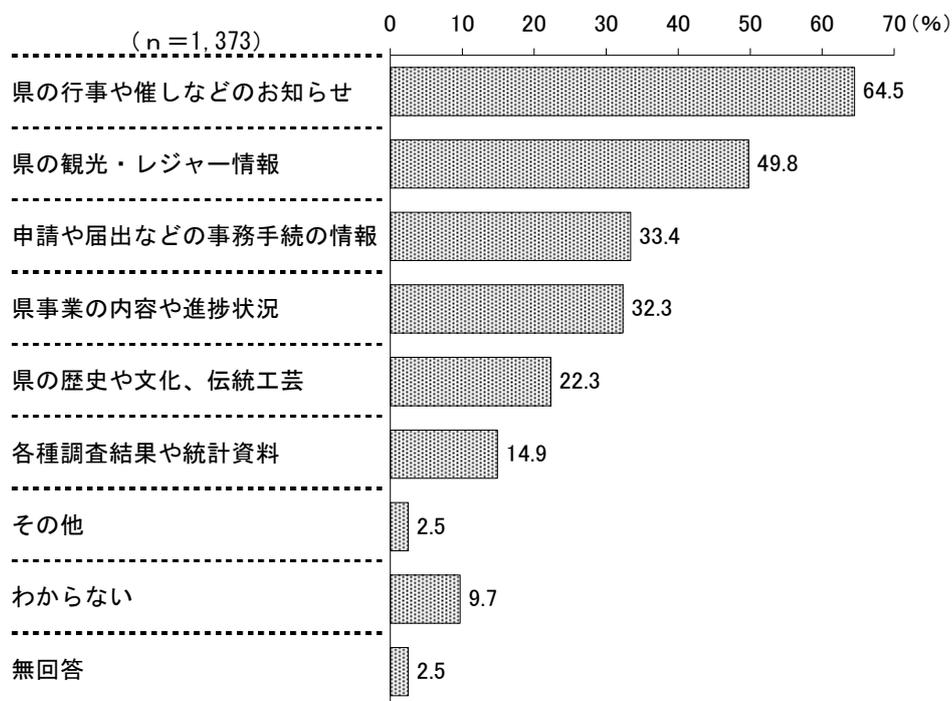
問16 あなたは、県の事業や催し、案内などの情報をどのような方法でお知りになりますか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,373]



- ・全体で見ると、「広報紙『とちぎ県民だより』」(65.4%)が6割半ばで最も高く、次いで「新聞報道」(47.8%)、「テレビ」(38.0%)、「ポスターやチラシ」(23.5%)、「ラジオ」(13.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「ポスターやチラシ」では〈女性〉(26.2%)が〈男性〉(21.2%)より5.0ポイント高くなっている。「新聞報道」では〈男性〉(50.0%)が〈女性〉(45.5%)より4.5ポイント高くなっている。「広報紙『とちぎ県民だより』」では〈女性〉(67.9%)が〈男性〉(63.5%)より4.4ポイント高くなっている。「ラジオ」では〈男性〉(15.0%)が〈女性〉(11.3%)より3.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「広報紙『とちぎ県民だより』」では〈男性70歳以上〉が81.0%、〈男性65～69歳〉が80.0%と高くなっている。「新聞報道」では〈男性65～69歳〉が71.3%と高くなっている。「テレビ」では〈男性70歳以上〉が54.4%と高くなっている。
- ・平成24年の調査結果との比較は、一部の選択肢が変更されているため参考にとどまるが、「ポスターやチラシ」が7.0ポイント、「広報紙『県民だより』」が4.3ポイント、それぞれ増加している。

(2) 「とちぎ県民だより」で知りたい県の情報

問17 県では、新聞折り込みで、毎月第一日曜日に広報紙「とちぎ県民だより」を発行していますが、あなたは「とちぎ県民だより」で、県のどのような情報を知りたいですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,373]

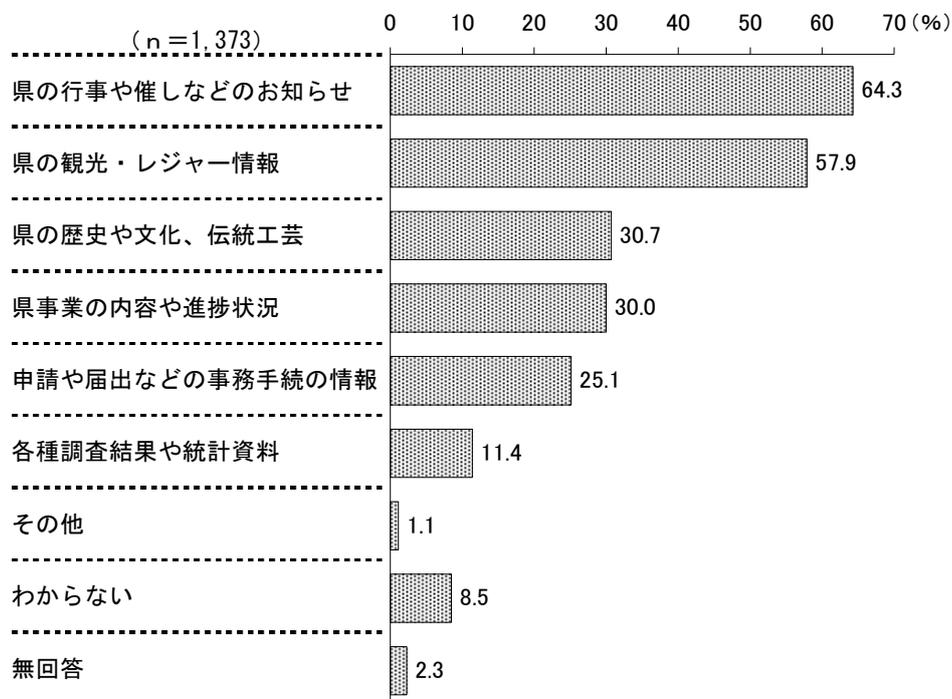


- ・全体で見ると、「県の行事や催しなどのお知らせ」(64.5%)が6割半ばで最も高く、次いで「県の観光・レジャー情報」(49.8%)、「申請や届出などの事務手続の情報」(33.4%)、「県事業の内容や進捗状況」(32.3%)、「県の歴史や文化、伝統工芸」(22.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「申請や届出などの事務手続の情報」では〈女性〉(38.4%)が〈男性〉(27.9%)より10.5ポイント高くなっている。「県の観光・レジャー情報」では〈女性〉(54.5%)が〈男性〉(45.7%)より8.8ポイント高くなっている。「県事業の内容や進捗状況」では〈男性〉(36.7%)が〈女性〉(28.5%)より8.2ポイント高くなっている。「県の行事や催しなどのお知らせ」では〈女性〉(68.5%)が〈男性〉(60.7%)より7.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「県の行事や催しなどのお知らせ」では〈女性30歳代〉が76.4%、〈女性40歳代〉が75.7%と高くなっている。「県の観光・レジャー情報」では〈女性50歳代〉以下の年代がそれぞれ6割台と高くなっている。「申請や届出などの事務手続の情報」では〈女性40歳代〉が45.2%、〈女性50歳代〉が45.0%と高くなっている。「県事業の内容や進捗状況」では〈男性60～64歳〉以上の年代がそれぞれ4割台と高くなっている。

(3) テレビやラジオで知りたい県の情報

問18 あなたは、テレビやラジオで、県のどのような情報を知りたいですか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,373]

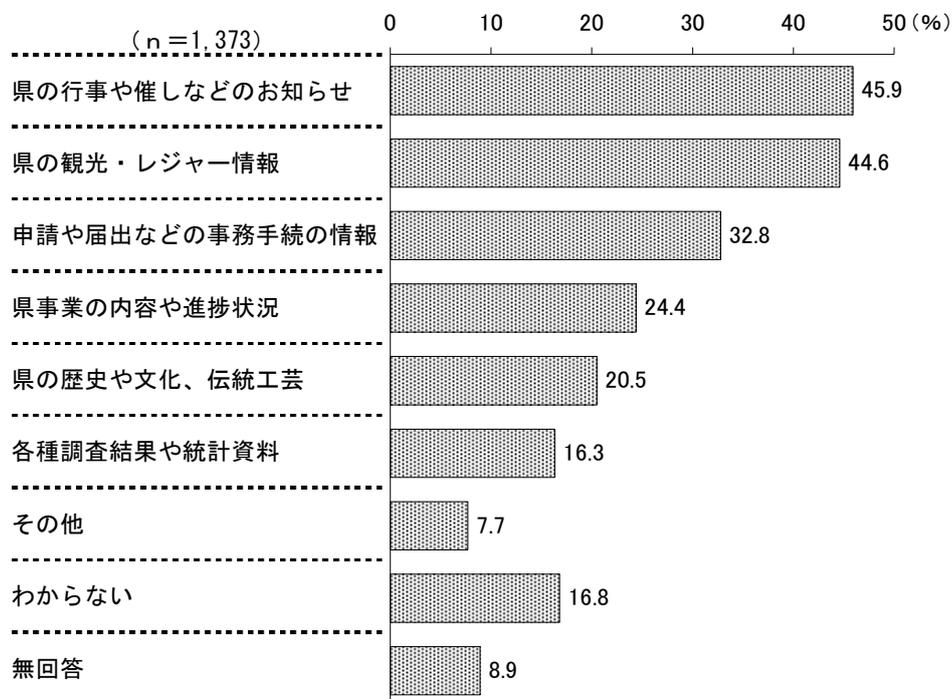


- ・全体で見ると、「県の行事や催しなどのお知らせ」(64.3%)が6割半ばで最も高く、次いで「県の観光・レジャー情報」(57.9%)、「県の歴史や文化、伝統工芸」(30.7%)、「県事業の内容や進捗状況」(30.0%)、「申請や届出などの事務手続の情報」(25.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「県事業の内容や進捗状況」では〈男性〉(37.3%)が〈女性〉(23.1%)より14.2ポイント高くなっている。「申請や届出などの事務手続の情報」では〈女性〉(28.0%)が〈男性〉(21.5%)より6.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「県の行事や催しなどのお知らせ」と「県の観光・レジャー情報」ではともに〈女性30歳代〉が77.8%と高くなっている。「県事業の内容や進捗状況」では〈男性65～69歳〉が50.0%と高くなっている。

(4) インターネットで知りたい県の情報

問19 あなたは、インターネットで、県のどのような情報を知りたいですか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,373]

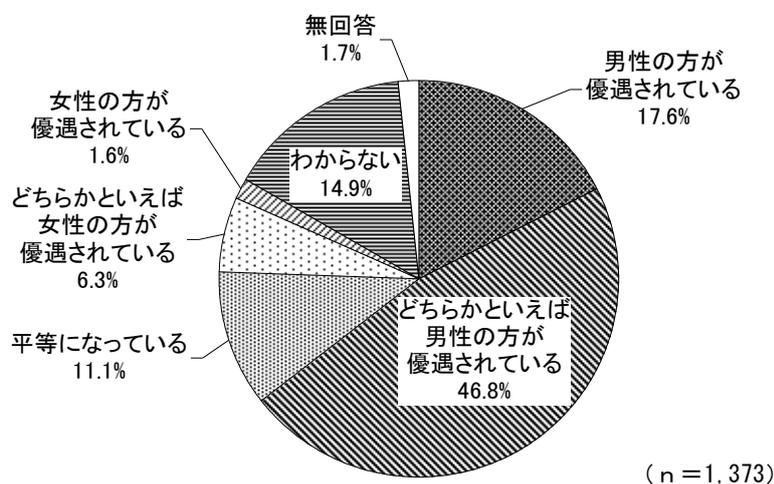


- ・全体で見ると、「県の行事や催しなどのお知らせ」(45.9%)と「県の観光・レジャー情報」(44.6%)がともに4割半ばで高く、次いで「申請や届出などの事務手続の情報」(32.8%)、「県事業の内容や進捗状況」(24.4%)、「県の歴史や文化、伝統工芸」(20.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「県事業の内容や進捗状況」では〈男性〉(29.1%)が〈女性〉(20.0%)より9.1ポイント高くなっている。「各種調査結果や統計資料」では〈男性〉(19.3%)が〈女性〉(13.3%)より6.0ポイント高くなっている。「申請や届出などの事務手続の情報」では〈女性〉(35.4%)が〈男性〉(30.2%)より5.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「県の行事や催しなどのお知らせ」では〈女性30歳代〉が72.2%と高くなっている。「県の観光・レジャー情報」では〈女性30歳代〉が75.0%と高くなっている。「申請や届出などの事務手続の情報」では〈女性30歳代〉が56.9%と高くなっている。

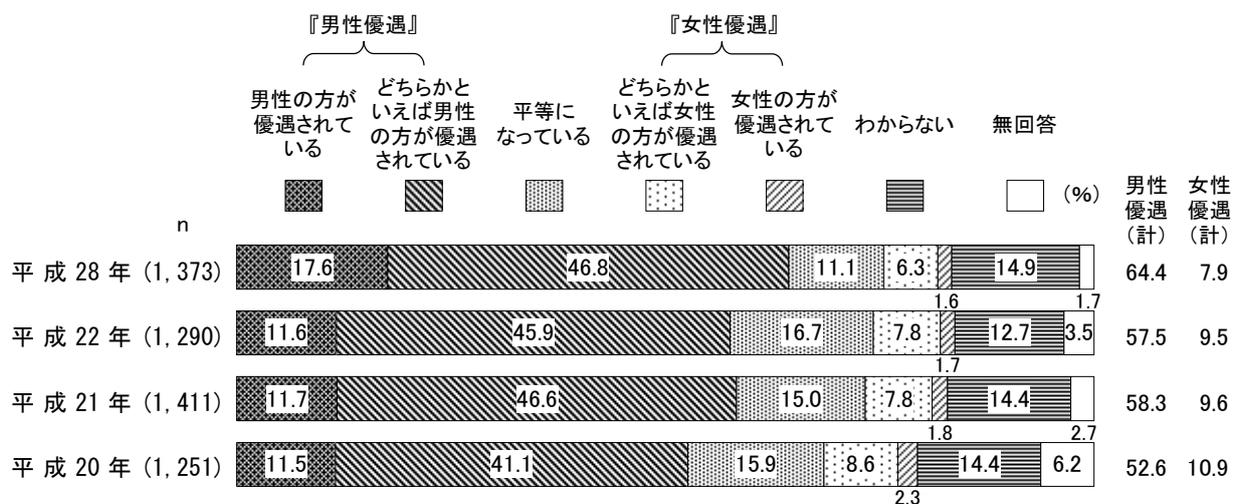
7 男女平等意識について

(1) 男女の地位の平等感

問20 あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,373]



- 全体でみると、「男性の方が優遇されている」(17.6%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(46.8%)の2つを合わせた『男性優遇』(64.4%)は6割半ばとなっている。一方、「女性の方が優遇されている」(1.6%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(6.3%)の2つを合わせた『女性優遇』(7.9%)は1割に満たない。
- 性別でみると、『男性優遇』では〈女性〉(68.1%)が〈男性〉(61.1%)より7.0ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉(11.0%)が〈女性〉(5.0%)より6.0ポイント高くなっている。
- 性/年齢別でみると、『男性優遇』では〈女性50歳代〉が75.9%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性30歳代〉が22.8%と高くなっている。

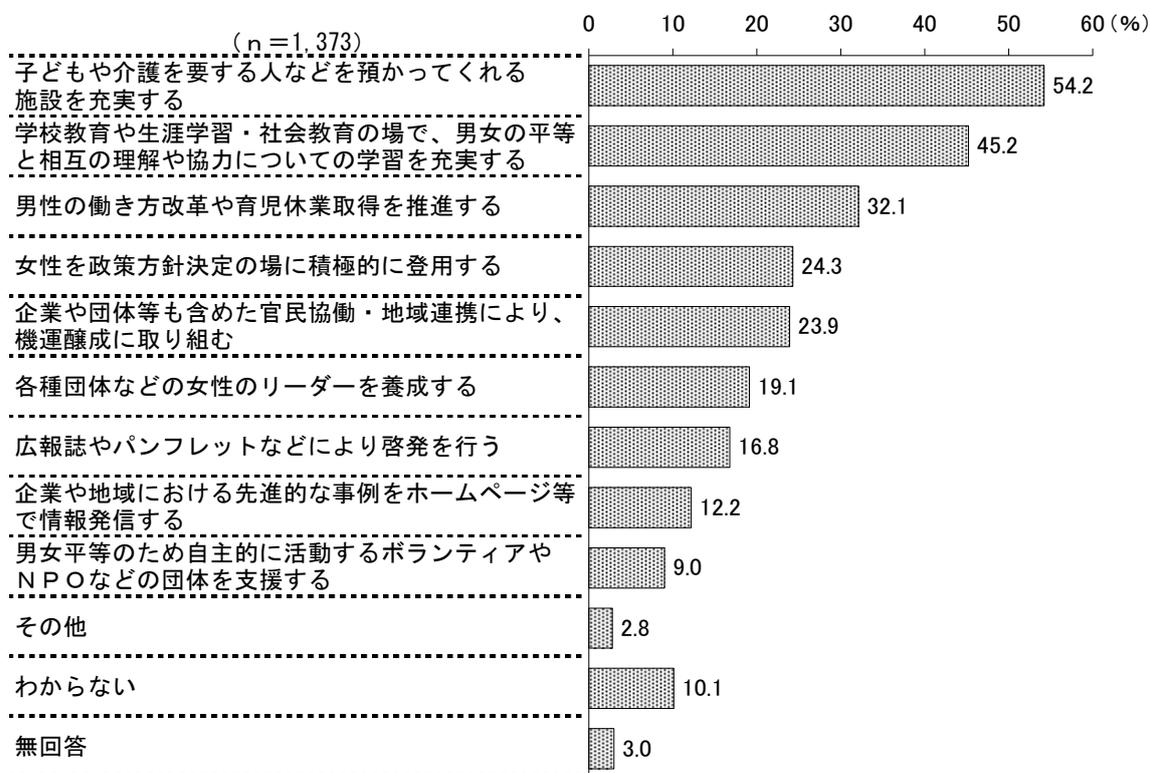


- 過去の調査結果と比較すると、『男性優遇』が平成22年より6.9ポイント増加している。一方、「平等になっている」が平成22年より5.6ポイント減少している。

(2) 男女平等な社会を推進していくための県の取組

問21 あなたは、今後さらに男女平等な社会を推進していくために、県はどのような取組に力を入れていくべきだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,373]

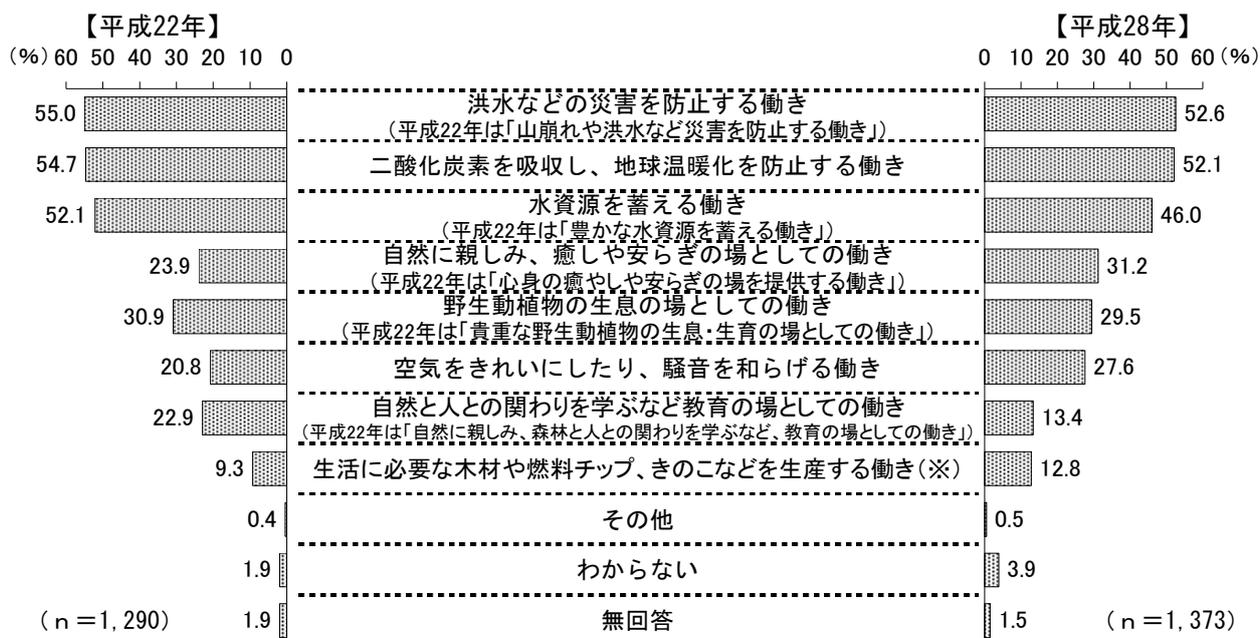


- ・全体で見ると、「子どもや介護を要する人などを預かってくれる施設を充実する」(54.2%)が5割半ばで最も高く、次いで「学校教育や生涯学習・社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」(45.2%)、「男性の働き方改革や育児休業取得を推進する」(32.1%)、「女性を政策方針決定の場に積極的に登用する」(24.3%)、「企業や団体等も含めた官民協働・地域連携により、機運醸成に取り組む」(23.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「子どもや介護を要する人などを預かってくれる施設を充実する」では〈女性〉(60.9%)が〈男性〉(47.5%)より13.4ポイント高くなっている。「企業や団体等も含めた官民協働・地域連携により、機運醸成に取り組む」では〈男性〉(28.5%)が〈女性〉(19.5%)より9.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「子どもや介護を要する人などを預かってくれる施設を充実する」では〈女性20歳代〉が73.1%、〈女性30歳代〉が72.2%と高くなっている。「男性の働き方改革や育児休業取得を推進する」では〈女性30歳代〉が62.5%、〈男性30歳代〉が56.1%、〈女性20歳代〉が55.8%と高くなっている。

8 とちぎの元気な森づくり県民税について

(1) 重要と考える森林の働き

問22 森林には、木材を生産したり、水や空気を育んだり、土砂災害を防いだり、地球温暖化を防止するなど、様々な働きがあります。あなたが、特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,373]

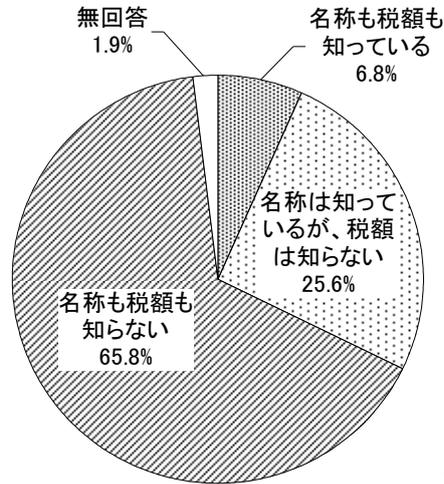


※「生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを生産する働き」(12.8%)は、平成22年調査では、「木材を生産する働き」(9.3%)と「きのこや山菜などの林産物を生産する働き」(4.7%)の2つの選択肢で質問していた。なお、作図の便宜上、「木材を生産する働き」(9.3%)を平成22年調査の割合として示している。
 ※平成22年調査で選択肢に加えていた「特にない」(0.5%)は、今回調査では質問していない。

- 全体で見ると、「洪水などの災害を防止する働き」(52.6%)と「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(52.1%)がともに5割を超えて高く、次いで「水資源を蓄える働き」(46.0%)、「自然に親しみ、癒しや安らぎの場としての働き」(31.2%)、「野生動植物の生息の場としての働き」(29.5%)の順となっている。
- 性別で見ると、「水資源を蓄える働き」では〈男性〉(51.1%)が〈女性〉(41.5%)より9.6ポイント高くなっている。「生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを生産する働き」では〈男性〉(17.0%)が〈女性〉(9.3%)より7.7ポイント高くなっている。「自然に親しみ、癒しや安らぎの場としての働き」では〈女性〉(34.8%)が〈男性〉(28.0%)より6.8ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「洪水などの災害を防止する働き」では〈女性65～69歳〉が62.9%と高くなっている。「水資源を蓄える働き」では〈男性65～69歳〉が61.3%と高くなっている。「自然に親しみ、癒しや安らぎの場としての働き」では〈女性20歳代〉が44.2%と高くなっている。「野生動植物の生息の場としての働き」では〈男性30歳代〉が43.9%と高くなっている。
- 平成22年の調査結果との比較は、一部の選択肢が変更されているため参考にとどまるが、上位3項目の順位に変動はみられない。

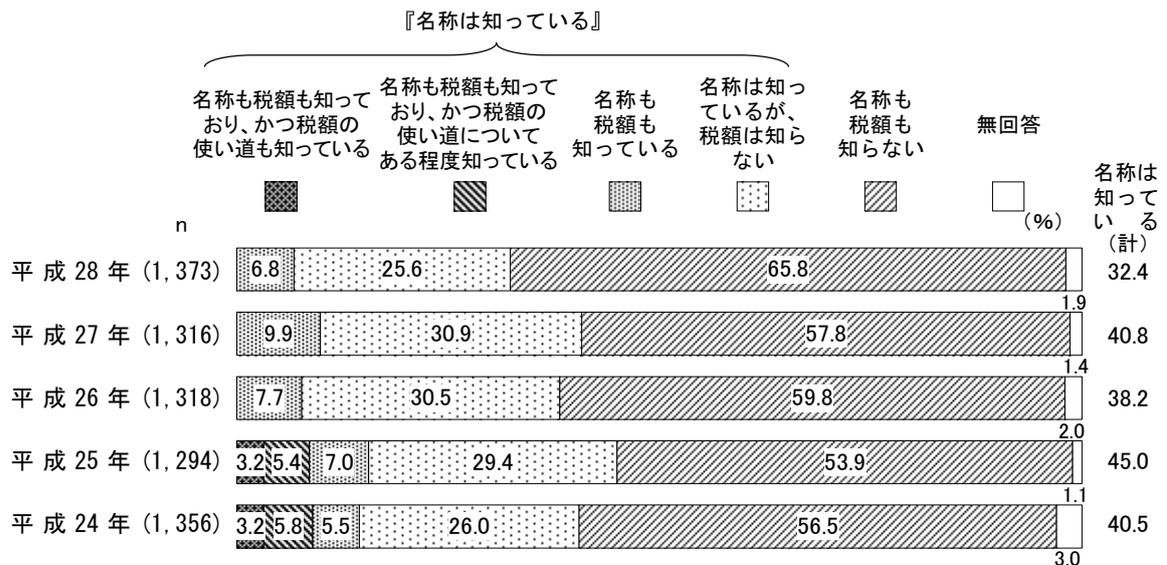
(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の認知度

問23 あなたは、森林を守り育て、元気な姿で次の世代に引き継いでいくため、平成20年4月から導入している「とちぎの元気な森づくり県民税」、いわゆる森林環境税を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,373]



(n=1,373)

- ・全体で見ると、「名称も税額も知っている」(6.8%)と「名称は知っているが、税額は知らない」(25.6%)の2つを合わせた『名称は知っている』(32.4%)は3割を超えている。一方、「名称も税額も知らない」(65.8%)は6割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、『名称は知っている』では〈男性〉(36.4%)が〈女性〉(28.7%)より7.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『名称は知っている』では〈男性65～69歳〉が51.3%、〈男性70歳以上〉が50.0%と高くなっている。「名称も税額も知らない」では〈女性20歳代〉が86.5%、〈女性40歳代〉が85.2%、〈男性20歳代〉が84.7%と高くなっている。



※「名称も税額も知っており、かつ税額の使い道も知っている」と「名称も税額も知っており、かつ税額についてある程度知っている」は平成26年調査以降は選択肢に加えていない。

※平成24年・25年調査では、「名称も税額も知っている」は「名称と税額のみ知っている」としていた。

- ・過去の調査結果と比較すると、『名称は知っている』が前回(平成27年)より8.4ポイント減少している。一方、「名称も税額も知らない」が前回(平成27年)より8.0ポイント増加している。

9 産業廃棄物処理施設について

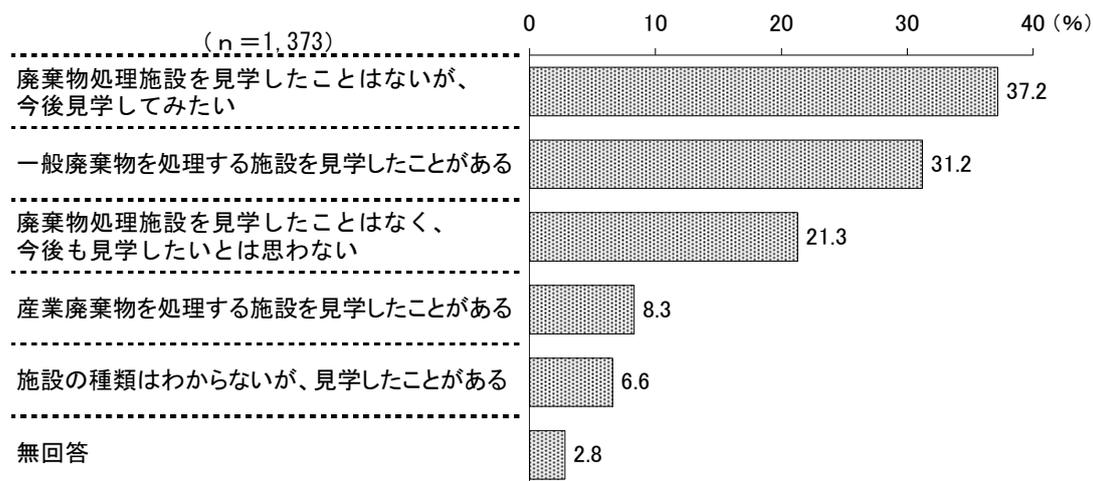
(1) 廃棄物処理施設を見学した経験

問24 あなたは、廃棄物処理施設を見学したことがありますか。また、見学したことがない方は、今後見学してみたいと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,373]

※1 一般廃棄物とは、生活ゴミなど一般家庭から排出される廃棄物です。

※2 産業廃棄物とは、民間企業の事業活動（工場で製品を生産する、建物を解体するなど）から排出される廃棄物です。

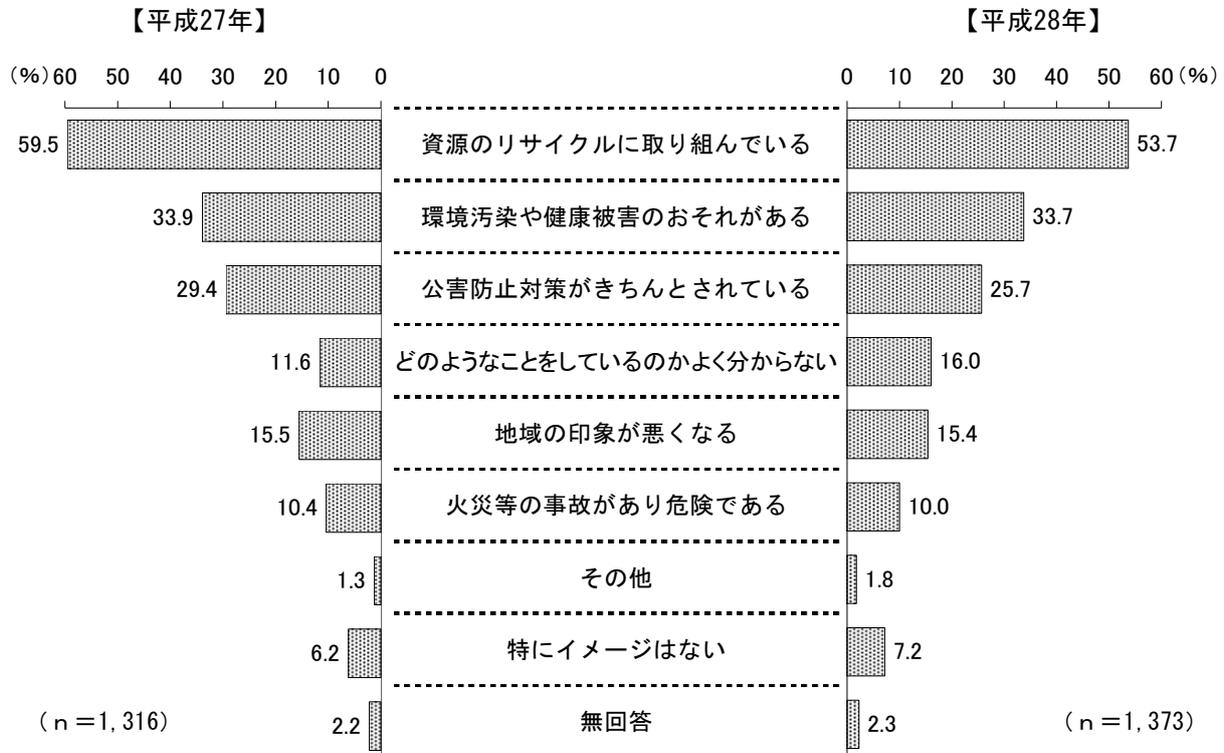


- ・全体で見ると、「廃棄物処理施設を見学したことはないが、今後見学してみたい」(37.2%)が4割近くで最も多く、次いで「一般廃棄物を処理する施設を見学したことがある」(31.2%)、「廃棄物処理施設を見学したことはなく、今後も見学したいとは思わない」(21.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「産業廃棄物を処理する施設を見学したことがある」では〈男性〉(13.6%)が〈女性〉(3.1%)より10.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「一般廃棄物を処理する施設を見学したことがある」では〈女性20歳代〉が42.3%と高くなっている。「廃棄物処理施設を見学したことはないが、今後見学してみたい」では〈女性60～64歳〉が50.0%と高くなっている。「廃棄物処理施設を見学したことはなく、今後も見学したいとは思わない」では〈男性20歳代〉が30.5%、〈女性50歳代〉が30.0%と高くなっている。

(2) 「産業廃棄物処理施設」のイメージ

問25 あなたは「産業廃棄物処理施設」にどのようなイメージがありますか。
次の中からいくつでも選んでください。

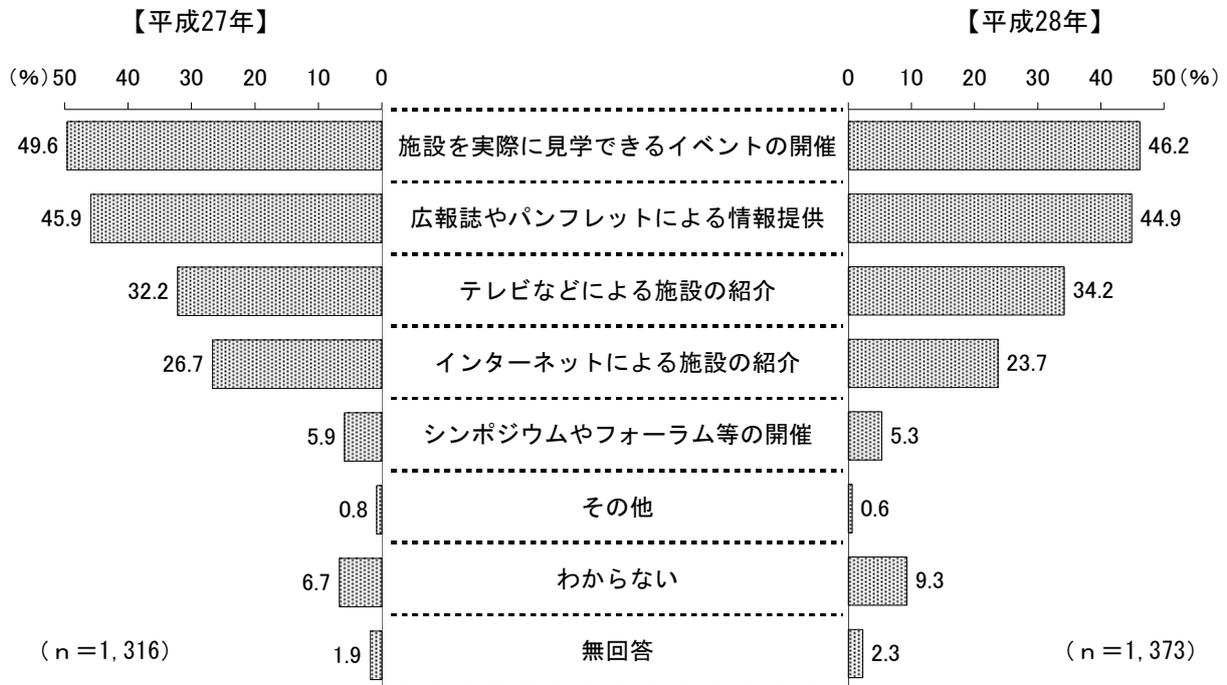
[n = 1,373]



- ・全体で見ると、「資源のリサイクルに取り組んでいる」(53.7%)が5割を超えて最も高く、次いで「環境汚染や健康被害のおそれがある」(33.7%)、「公害防止対策がきちんとされている」(25.7%)、「どのようなことをしているのかよく分からない」(16.0%)、「地域の印象が悪くなる」(15.4%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「公害防止対策がきちんとされている」では〈男性〉(29.1%)が〈女性〉(22.7%)より6.4ポイント高くなっている。「地域の印象が悪くなる」では〈男性〉(18.6%)が〈女性〉(12.7%)より5.9ポイント高くなっている。「どのようなことをしているのかよく分からない」では〈女性〉(18.4%)が〈男性〉(13.3%)より5.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「資源のリサイクルに取り組んでいる」では〈男性60～64歳〉が61.0%と高くなっている。「環境汚染や健康被害のおそれがある」では〈男性60～64歳〉が48.8%と高くなっている。「公害防止対策がきちんとされている」では〈男性70歳以上〉が46.8%と高くなっている。「地域の印象が悪くなる」では〈男性20歳代〉が25.4%、〈男性50歳代〉が25.2%と高くなっている。
- ・前回(平成27年)の調査結果と比較すると、「資源のリサイクルに取り組んでいる」が5.8ポイント、「公害防止対策がきちんとされている」が3.7ポイント、それぞれ減少している。一方、「どのようなことをしているのかよく分からない」が4.4ポイント増加している。

(3) 産業廃棄物処理施設を知るために県に求めること

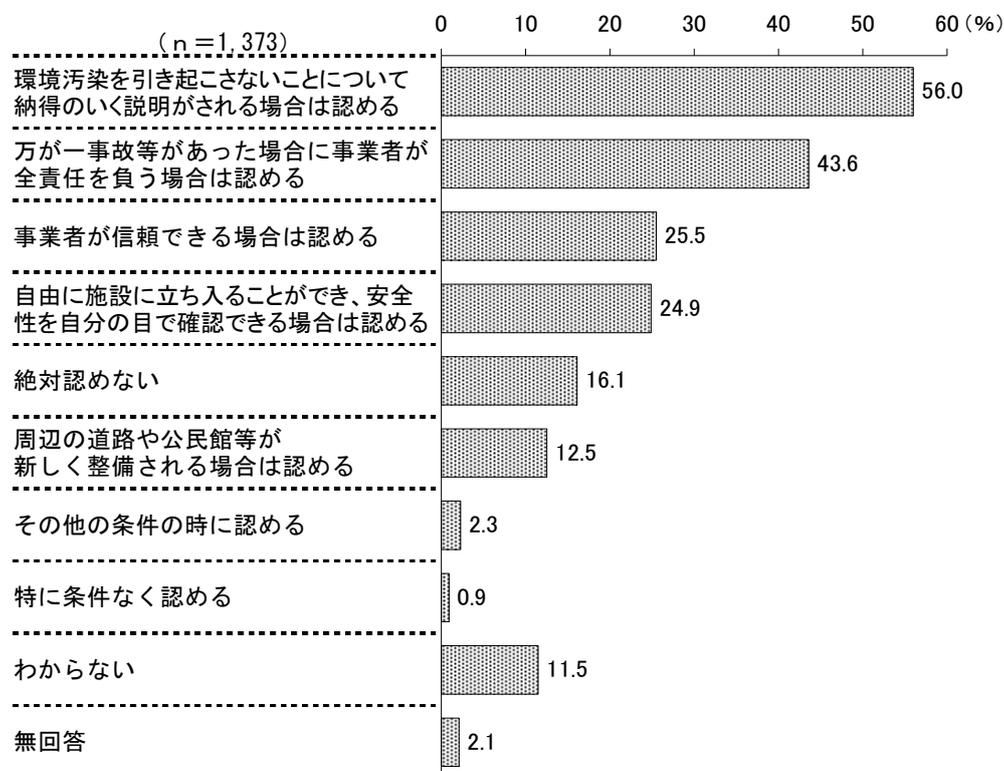
問26 あなたが、産業廃棄物処理施設を詳しく知りたいと思ったときに、県にどのようなことを求めますか。次の中から2つまで選んでください。 [n=1,373]



- ・全体で見ると、「施設を実際に見学できるイベントの開催」(46.2%)と「広報誌やパンフレットによる情報提供」(44.9%)がともに4割半ばで高く、次いで「テレビなどによる施設の紹介」(34.2%)、「インターネットによる施設の紹介」(23.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「テレビなどによる施設の紹介」では〈女性〉(38.9%)が〈男性〉(29.6%)より9.3ポイント高くなっている。「インターネットによる施設の紹介」では〈男性〉(26.5%)が〈女性〉(21.4%)より5.1ポイント高くなっている。「広報誌やパンフレットによる情報提供」では〈女性〉(47.6%)が〈男性〉(42.7%)より4.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「施設を実際に見学できるイベントの開催」では〈女性30歳代〉が55.6%、〈女性60～64歳〉が54.2%と高くなっている。「広報誌やパンフレットによる情報提供」では〈男性60～64歳〉が61.0%、〈女性65～69歳〉が60.8%と高くなっている。「テレビなどによる施設の紹介」では〈女性65～69歳〉が44.3%と高くなっている。「インターネットによる施設の紹介」では〈女性30歳代〉が52.8%と高くなっている。
- ・前回(平成27年)の調査結果と比較すると、「施設を実際に見学できるイベントの開催」が3.4ポイント、「インターネットによる施設の紹介」が3.0ポイント、それぞれ減少している。

(4) 近隣の産業廃棄物処理施設についての考え

問27 もし、あなたの家の近くに産業廃棄物処理施設ができるとした場合、どのような条件であれば認めることができますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,373]



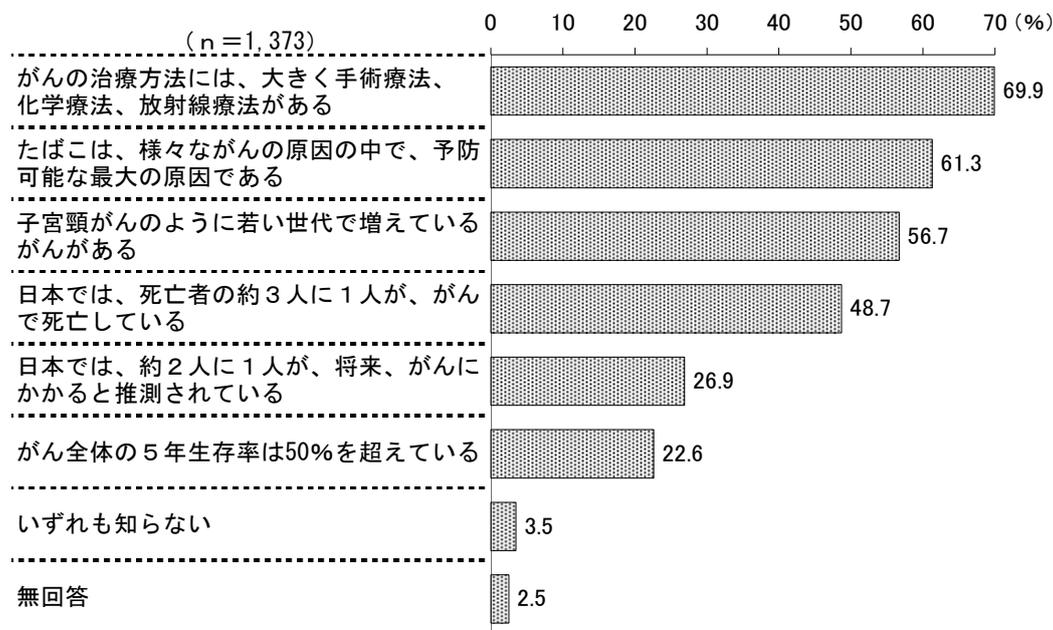
- ・全体で見ると、「環境汚染を引き起こさないことについて納得のいく説明がされる場合は認める」(56.0%)が5割半ばで最も高く、次いで「万が一事故等があった場合に事業者が全責任を負う場合は認める」(43.6%)、「事業者が信頼できる場合は認める」(25.5%)、「自由に施設に立ち入ることができ、安全性を自分の目で確認できる場合は認める」(24.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「自由に施設に立ち入ることができ、安全性を自分の目で確認できる場合は認める」では〈男性〉(29.3%)が〈女性〉(21.5%)より7.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「環境汚染を引き起こさないことについて納得のいく説明がされる場合は認める」では〈男性60～64歳〉が67.1%と高くなっている。「万が一事故等があった場合に事業者が全責任を負う場合は認める」では〈男性20歳代〉が57.6%と高くなっている。「事業者が信頼できる場合は認める」では〈女性20歳代〉が36.5%、〈男性20歳代〉が35.6%と高くなっている。「自由に施設に立ち入ることができ、安全性を自分の目で確認できる場合は認める」では〈男性60～64歳〉が39.0%と高くなっている。「絶対認めない」では〈男性30歳代〉が31.8%と高くなっている。

10 とちぎのがん対策等について

(1) がんについて知っていること

問28 がんについてあなたが知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

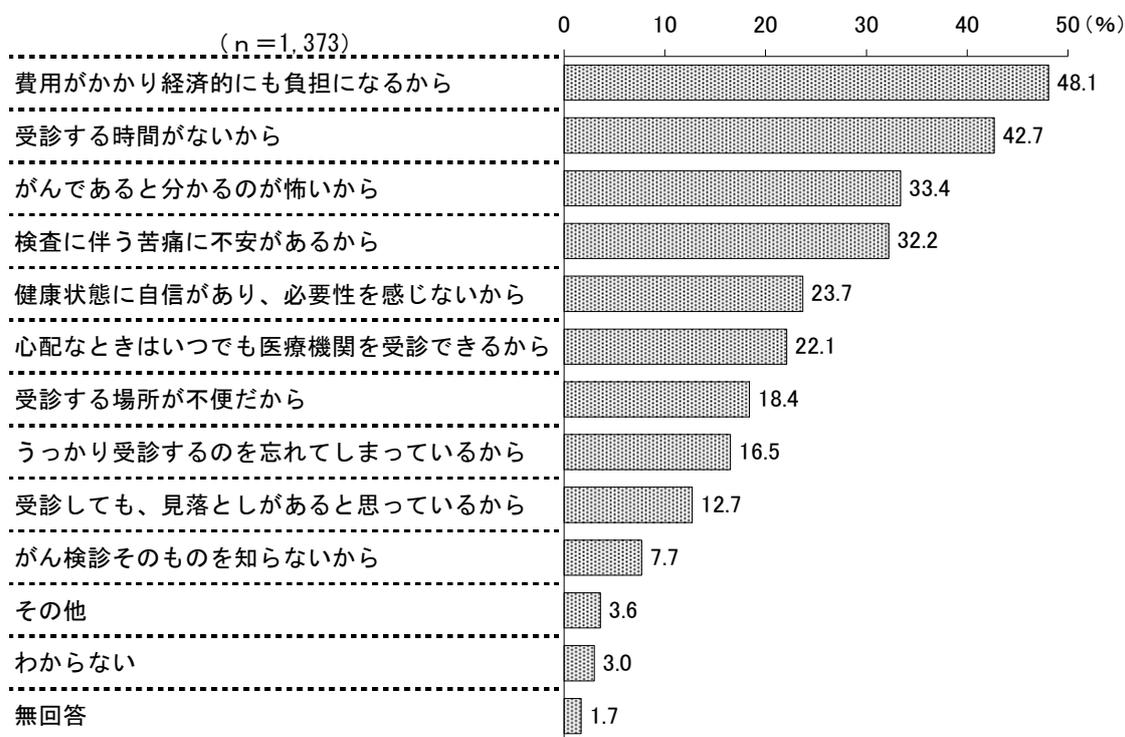
[n = 1,373]



- ・ 全体で見ると、「がんの治療方法には、大きく手術療法、化学療法、放射線療法がある」(69.9%)が7割で最も高く、次いで「たばこは、様々ながんの原因の中で、予防可能な最大の原因である」(61.3%)、「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」(56.7%)、「日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している」(48.7%)の順となっている。
- ・ 性別で見ると、「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」では〈女性〉(67.8%)が〈男性〉(45.0%)より22.8ポイント高くなっている。「がんの治療方法には、大きく手術療法、化学療法、放射線療法がある」では〈女性〉(74.8%)が〈男性〉(65.6%)より9.2ポイント高くなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「がんの治療方法には、大きく手術療法、化学療法、放射線療法がある」では〈女性60～64歳〉が83.3%、〈男性65～69歳〉が82.5%と高くなっている。「たばこは、様々ながんの原因の中で、予防可能な最大の原因である」では〈女性30歳代〉が70.8%と高くなっている。「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」では〈女性30歳代〉が87.5%と高くなっている。「日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している」では〈女性30歳代〉が61.1%と高くなっている。

(2) がん検診を受診しない人が多い理由

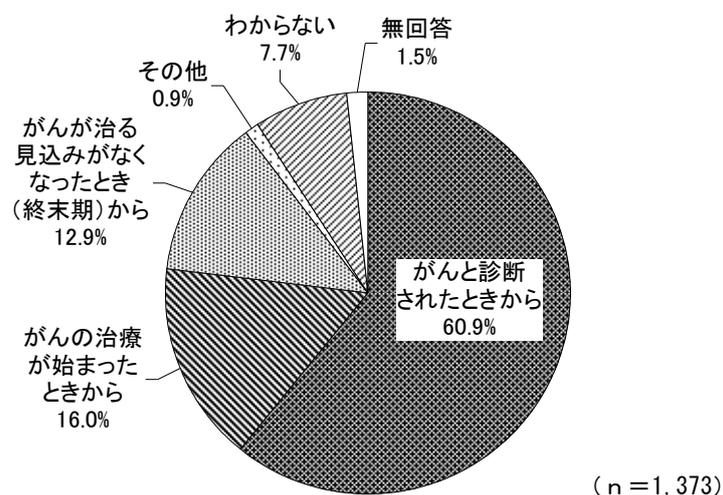
問29 がん検診の受診率は、40%程度となっていますが、欧米諸国と比較すると依然として低い状況です。あなたは、多くの方ががん検診を受けないのはなぜだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,373]



- ・全体で見ると、「費用がかかり経済的にも負担になるから」(48.1%)が5割近くで最も高く、次いで「受診する時間がないから」(42.7%)、「がんであると分かるのが怖いから」(33.4%)、「検査に伴う苦痛に不安があるから」(32.2%)、「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」(23.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「検査に伴う苦痛に不安があるから」では〈女性〉(41.2%)が〈男性〉(22.6%)より18.6ポイント高くなっている。「がんであると分かるのが怖いから」では〈女性〉(38.7%)が〈男性〉(27.6%)より11.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「費用がかかり経済的にも負担になるから」では〈男性30歳代〉が75.8%と高くなっている。「受診する時間がないから」では〈女性30歳代〉が75.0%と高くなっている。「検査に伴う苦痛に不安があるから」では〈女性60~64歳〉が58.3%と高くなっている。「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」では〈女性70歳以上〉が46.8%と高くなっている。

(3) 緩和ケアを実施すべきだと思う患者の状態

問30 がんに対する緩和ケアとは、「がんに伴う体と心の痛みを和らげること」です。
あなたは、緩和ケアはいつから実施されるべきものと思いますか。
次の中から1つ選んでください。 [n=1,373]

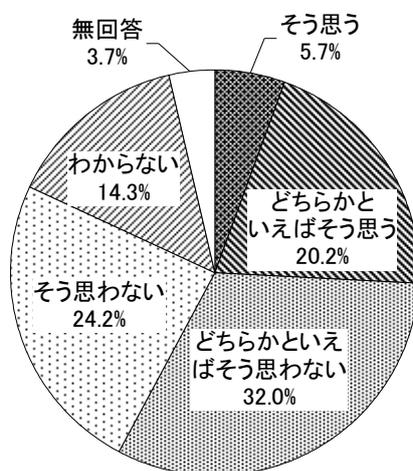


- ・全体で見ると、「がんと診断されたときから」(60.9%) がほぼ6割で最も高く、次いで「がんの治療が始まったときから」(16.0%)、「がんが治る見込みがなくなったとき(終末期)から」(12.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「がんと診断されたときから」では〈女性〉(62.5%)が〈男性〉(59.6%)より2.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「がんと診断されたときから」では〈女性40歳代〉が78.3%、〈女性30歳代〉が75.0%と高くなっている。「がんの治療が始まったときから」では〈女性60～64歳〉が22.2%、〈男性65～69歳〉が21.3%、〈男性60～64歳〉が20.7%と高くなっている。

(4) がんの治療・検査のために通院しながら働き続ける社会の環境

問31 現在の日本の社会では、がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,373]



(n=1,373)

- ・全体で見ると、「そう思う」(5.7%)と「どちらかといえばそう思う」(20.2%)の2つを合わせた『そう思う』(25.9%)は2割半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(32.0%)と「そう思わない」(24.2%)の2つを合わせた『そう思わない』(56.2%)は5割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、『そう思う』では〈男性〉(30.3%)が〈女性〉(21.8%)より8.5ポイント高くなっている。一方、『そう思わない』では〈女性〉(59.9%)が〈男性〉(52.6%)より7.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『そう思う』では〈男性50歳代〉が38.8%と高くなっている。一方、『そう思わない』では〈女性30歳代〉が80.6%と高くなっている。

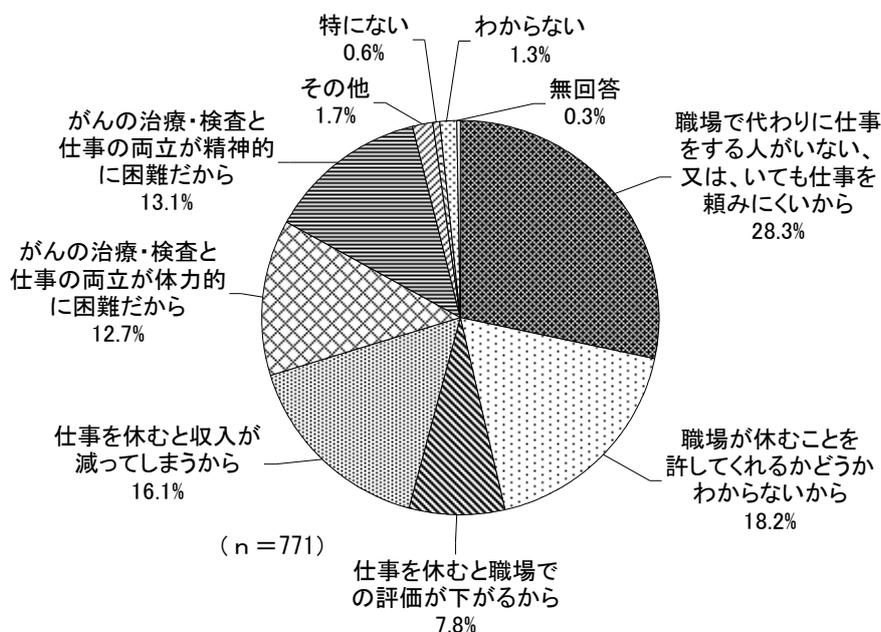
(4-1) がんの治療・検査のために通院しながら働き続けるための妨げになること

(問31で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」を選んだ方のみお答えください)

問31-1 がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、働き続けることを難しくさせている最も大きな理由は何だと思いますか。

次の中から1つ選んでください。

[n=771]



- ・全体で見ると、「職場で代わりに仕事をする人がいない、又は、いても仕事を頼みにくいから」(28.3%)が3割近くで最も高く、次いで「職場が休むことを許してくれるかどうかわからないから」(18.2%)、「仕事を休むと収入が減ってしまうから」(16.1%)、「がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから」(13.1%)、「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから」(12.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「職場が休むことを許してくれるかどうかわからないから」では〈女性〉(20.7%)が〈男性〉(15.3%)より5.4ポイント高くなっている。「仕事を休むと収入が減ってしまうから」では〈男性〉(18.8%)が〈女性〉(13.8%)より5.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「職場で代わりに仕事をする人がいない、又は、いても仕事を頼みにくいから」では〈女性30歳代〉が41.4%と高くなっている。「職場が休むことを許してくれるかどうかわからないから」では〈女性20歳代〉が27.8%と高くなっている。「がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから」では〈女性70歳以上〉が29.0%と高くなっている。

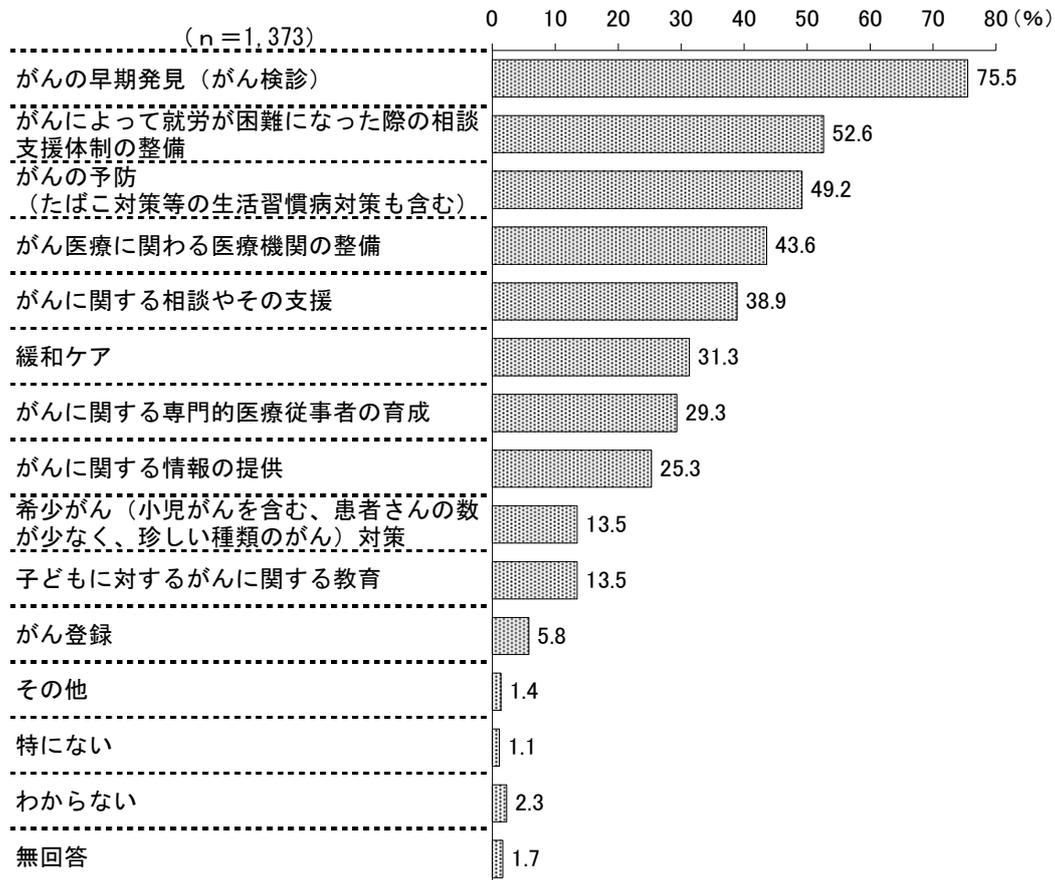
(5) 県のがん対策で重要だと思うこと

問32 これからの県のがん対策について、あなたは何が重要だと思いますか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,373]

※ がん登録とは、今後のがん検診やがん医療の評価に役立てるため、一人ひとりのがん患者に関する診断名やその後の経過、生存状況等の情報を収集する仕組みです。



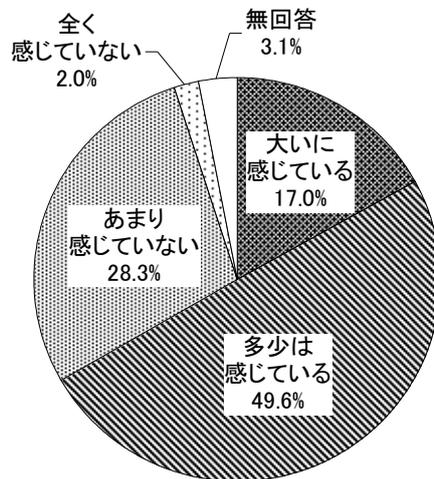
- ・全体で見ると、「がんの早期発見 (がん検診)」(75.5%) が7割半ばで最も高く、次いで「がんによって就労が困難になった際の相談支援体制の整備」(52.6%)、「がんの予防 (たばこ対策等の生活習慣病対策も含む)」(49.2%)、「がん医療に関わる医療機関の整備」(43.6%)、「がんに関する相談やその支援」(38.9%) の順となっている。
- ・性別で見ると、「緩和ケア」では〈女性〉(38.4%) が〈男性〉(24.1%) より14.3ポイント高くなっている。「がんによって就労が困難になった際の相談支援体制の整備」では〈女性〉(59.2%) が〈男性〉(46.1%) より13.1ポイント高くなっている。「がんに関する相談やその支援」では〈女性〉(42.7%) が〈男性〉(34.7%) より8.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「がんによって就労が困難になった際の相談支援体制の整備」では〈女性60～64歳〉が72.2%と高くなっている。「がんの予防 (たばこ対策等の生活習慣病対策も含む)」では〈男性70歳以上〉が60.8%と高くなっている。「がん医療に関わる医療機関の整備」では〈女性20歳代〉が59.6%と高くなっている。「がんに関する相談やその支援」では〈女性60～64歳〉が58.3%と高くなっている。

11 食の安全・安心について

(1) 食品の安全性に対する不安

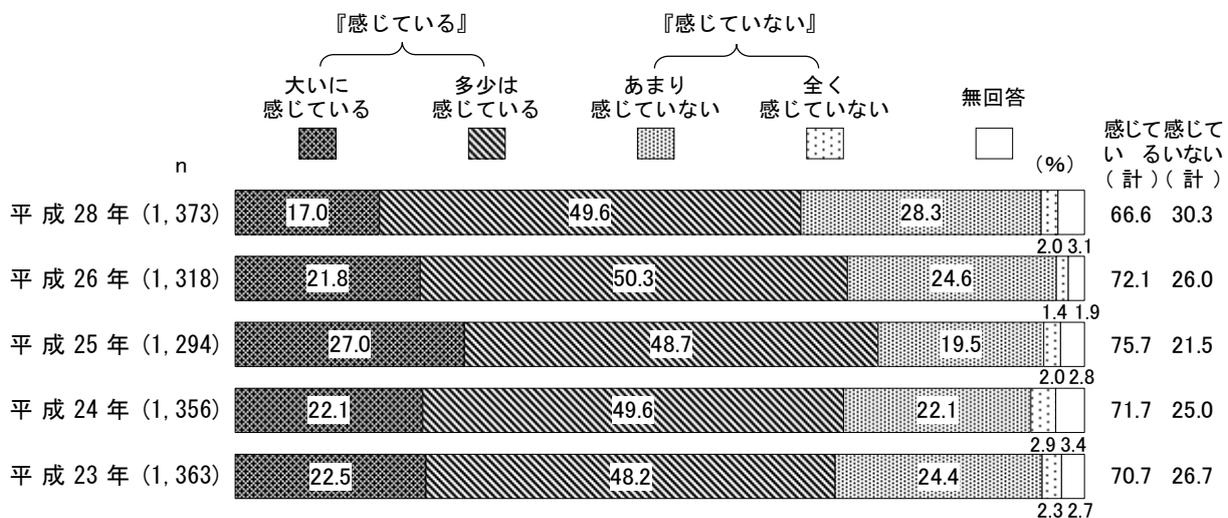
問33 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。
次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 373]



(n = 1, 373)

- ・全体で見ると、「大いに感じている」(17.0%)と「多少は感じている」(49.6%)の2つを合わせた『感じている』(66.6%)は7割近くと高くなっている。一方、「あまり感じていない」(28.3%)と「全く感じていない」(2.0%)の2つを合わせた『感じていない』(30.3%)は3割となっている。
- ・性別で見ると、『感じている』では〈女性〉(73.9%)が〈男性〉(59.3%)より14.6ポイント高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性〉(38.2%)が〈女性〉(23.0%)より15.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『感じている』では〈女性60~64歳〉が80.5%、〈女性50歳代〉が80.0%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈女性20歳代〉が48.0%、〈男性20歳代〉が45.8%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、『感じている』が平成26年より5.5ポイント減少している。一方、『感じていない』が平成26年より4.3ポイント増加している。

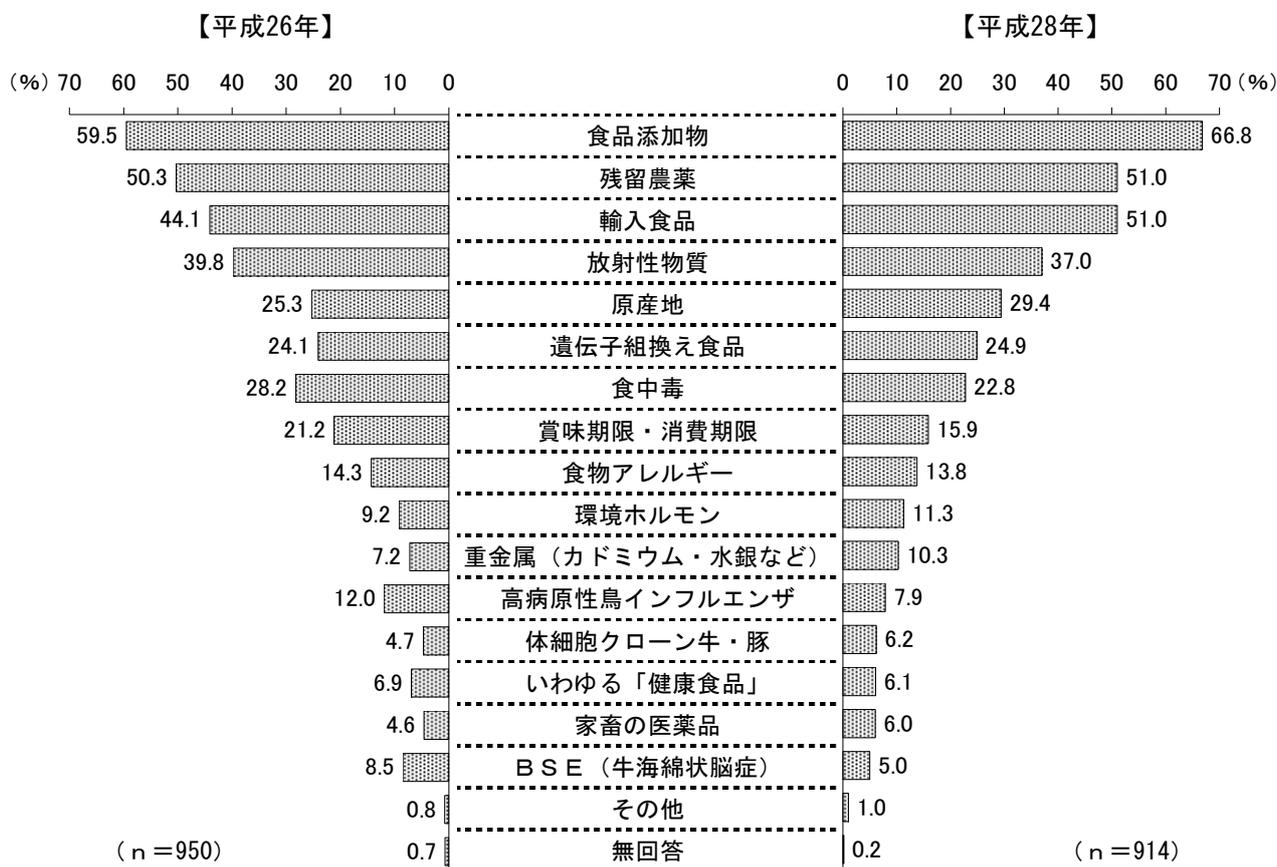
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの

(問33で「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

問33-1 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。

次の中から4つまで選んでください。

[n=914]

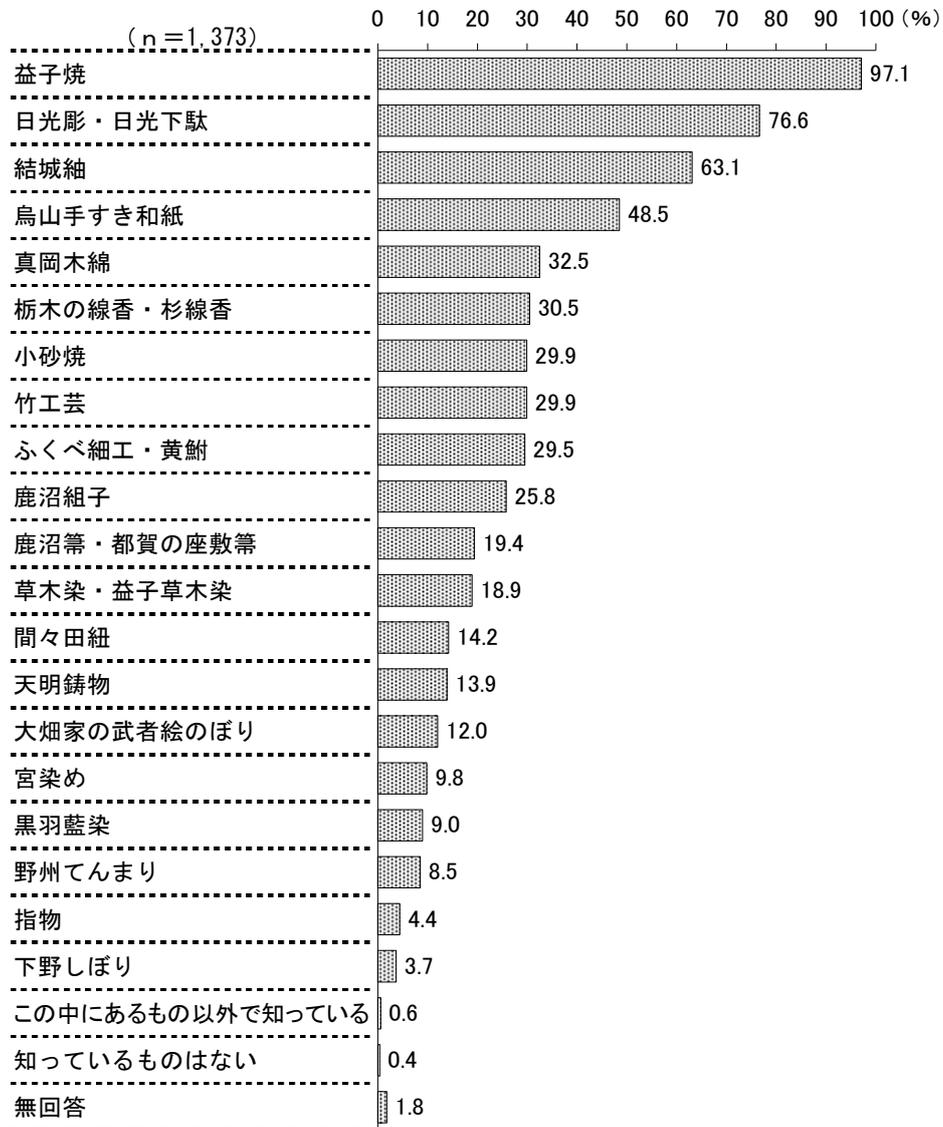


- ・全体で見ると、「食品添加物」(66.8%)が7割近くで最も高く、次いで「残留農薬」(51.0%)、「輸入食品」(51.0%)、「放射性物質」(37.0%)、「原産地」(29.4%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食品添加物」では〈女性〉(69.5%)が〈男性〉(63.7%)より5.8ポイント高くなっている。「輸入食品」では〈女性〉(53.1%)が〈男性〉(47.8%)より5.3ポイント高くなっている。「放射性物質」では〈女性〉(39.2%)が〈男性〉(34.2%)より5.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「食品添加物」では〈女性65~69歳〉が80.3%と高くなっている。「残留農薬」では〈女性65~69歳〉が70.4%と高くなっている。「輸入食品」では〈女性65~69歳〉が66.2%と高くなっている。「放射性物質」では〈女性30歳代〉が55.6%と高くなっている。「食中毒」では〈男性20歳代〉が41.9%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈男性20歳代〉が35.5%と高くなっている。
- ・平成26年の調査結果と比較すると、「食品添加物」は7.3ポイント、「輸入食品」は6.9ポイント、「原産地」は4.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「食中毒」は5.4ポイント、「賞味期限・消費期限」は5.3ポイント、「高病原性鳥インフルエンザ」は4.1ポイント、それぞれ減少している。

12 とちぎの伝統工芸品について

(1) 県内の伝統工芸品で知っているもの

問34 栃木県内の伝統工芸品の中であなたが知っているものを、次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1,373]

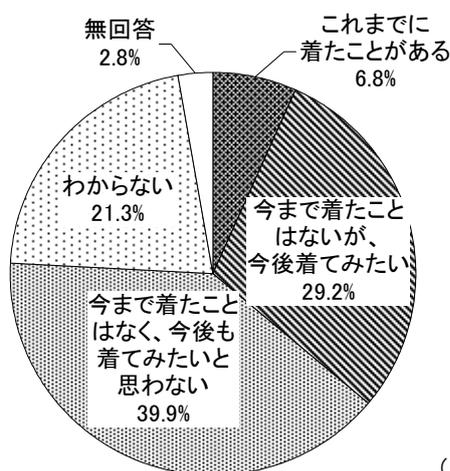


- ・全体で見ると、「益子焼」(97.1%)が10割近くで最も高く、次いで「日光彫・日光下駄」(76.6%)、「結城紬」(63.1%)、「烏山手すき和紙」(48.5%)、「真岡木綿」(32.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「日光彫・日光下駄」では〈女性〉(82.0%)が〈男性〉(71.1%)より10.9ポイント高くなっている。「竹工芸」では〈女性〉(34.4%)が〈男性〉(25.9%)より8.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「日光彫・日光下駄」では〈女性50歳代〉が90.8%、〈女性65～69歳〉が89.7%と高くなっている。「結城紬」では〈男性65～69歳〉が88.8%、〈女性65～69歳〉が84.5%と高くなっている。「烏山手すき和紙」では〈男性65～69歳〉が67.5%、〈女性65～69歳〉が67.0%と高くなっている。「真岡木綿」では〈女性70歳以上〉が50.9%、〈女性65～69歳〉が49.5%と高くなっている。

(2) 結城紬を着た経験・結城紬を着たいと思うか

問35 県内の伝統工芸品の中でも、「結城紬」は国指定の伝統工芸品であり、ユネスコ無形文化遺産にも登録されていますが、あなたはこれまでに結城紬を着たことがありますか。また、着たことがない方は、今後着たいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,373]



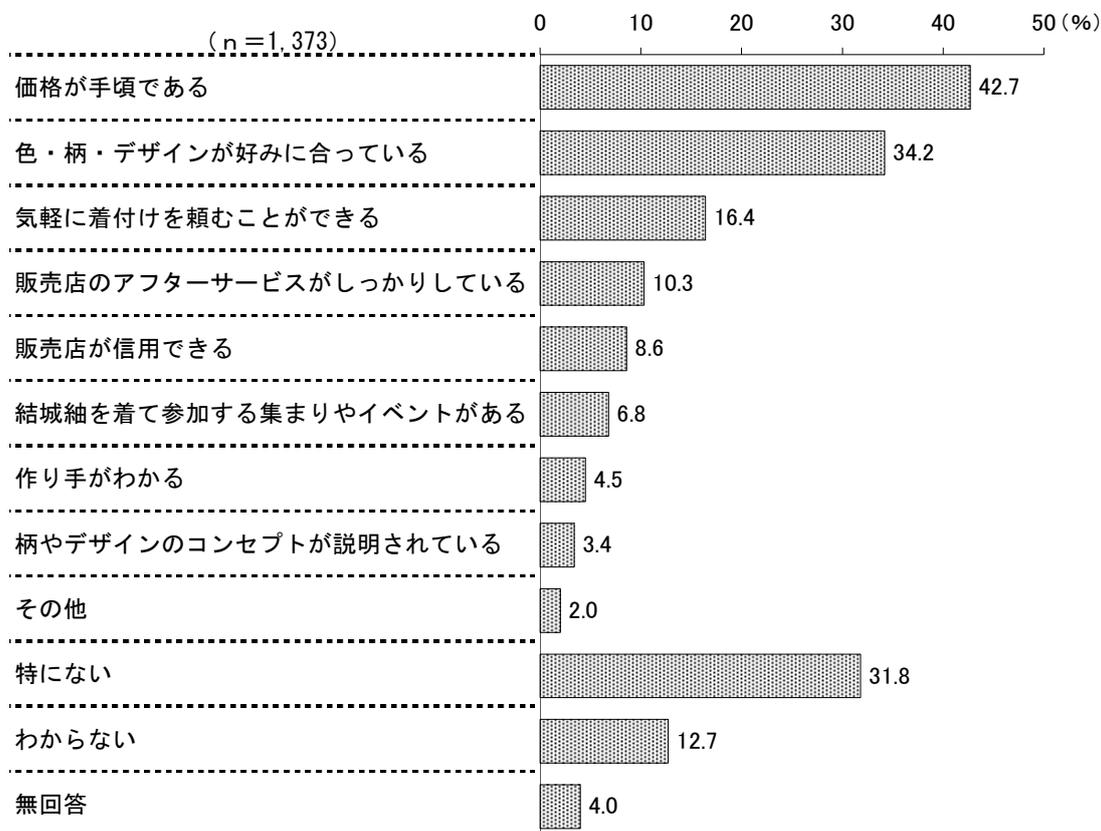
(n=1,373)

- ・全体で見ると、「これまでに着たことがある」(6.8%)は1割に満たない。「今まで着たことはないが、今後着てみたい」(29.2%)はほぼ3割で、「今まで着たことはなく、今後も着てみたいと思わない」(39.9%)は4割となっている。
- ・性別で見ると、「これまでに着たことがある」では〈女性〉(9.6%)が〈男性〉(3.6%)より6.0ポイント高くなっている。「今まで着たことはなく、今後も着てみたいと思わない」では〈男性〉(45.8%)が〈女性〉(34.8%)より11.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「これまでに着たことがある」では〈女性70歳以上〉が17.9%と高くなっている。「今まで着たことはないが、今後着てみたい」では〈女性20歳代〉が46.2%、〈女性30歳代〉が43.1%、〈女性40歳代〉が42.6%と高くなっている。「今まで着たことはなく、今後も着てみたいと思わない」では〈男性60～64歳〉が52.4%、〈女性65～69歳〉が50.5%、〈男性40歳代〉が50.0%と高くなっている。

(3) どのような条件であれば結城紬を購入したいか

問36 あなたは、どのような条件等であれば、結城紬を購入したいと思いますか。
次の中からいくつでも選んでください。

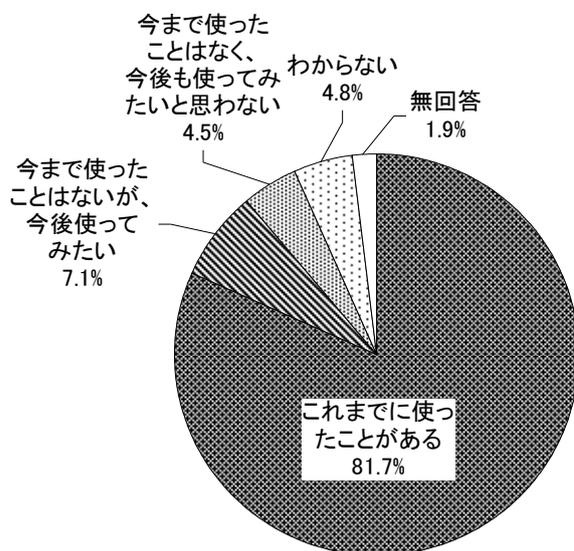
[n = 1,373]



- ・全体で見ると、「価格が手頃である」(42.7%)が4割を超えて最も高く、次いで「色・柄・デザインが好みに合っている」(34.2%)、「気軽に着付けを頼むことができる」(16.4%)、「販売店のアフターサービスがしっかりしている」(10.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「気軽に着付けを頼むことができる」では〈女性〉(22.4%)が〈男性〉(10.2%)より12.2ポイント高くなっている。「価格が手頃である」では〈女性〉(48.2%)が〈男性〉(37.0%)より11.2ポイント高くなっている。「色・柄・デザインが好みに合っている」では〈女性〉(39.2%)が〈男性〉(28.9%)より10.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「価格が手頃である」では〈女性20歳代〉が69.2%、〈女性30歳代〉が66.7%と高くなっている。「色・柄・デザインが好みに合っている」では〈女性30歳代〉が62.5%と高くなっている。「気軽に着付けを頼むことができる」では〈女性20歳代〉が46.2%と高くなっている。

(4) 益子焼を使った経験・益子焼を使いたいと思うか

問37 県内の伝統工芸品の中でも「益子焼」は国指定の伝統工芸品ですが、あなたは「益子焼」を使うことがありますか。また、使ったことがない方は、今後使いたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,373]



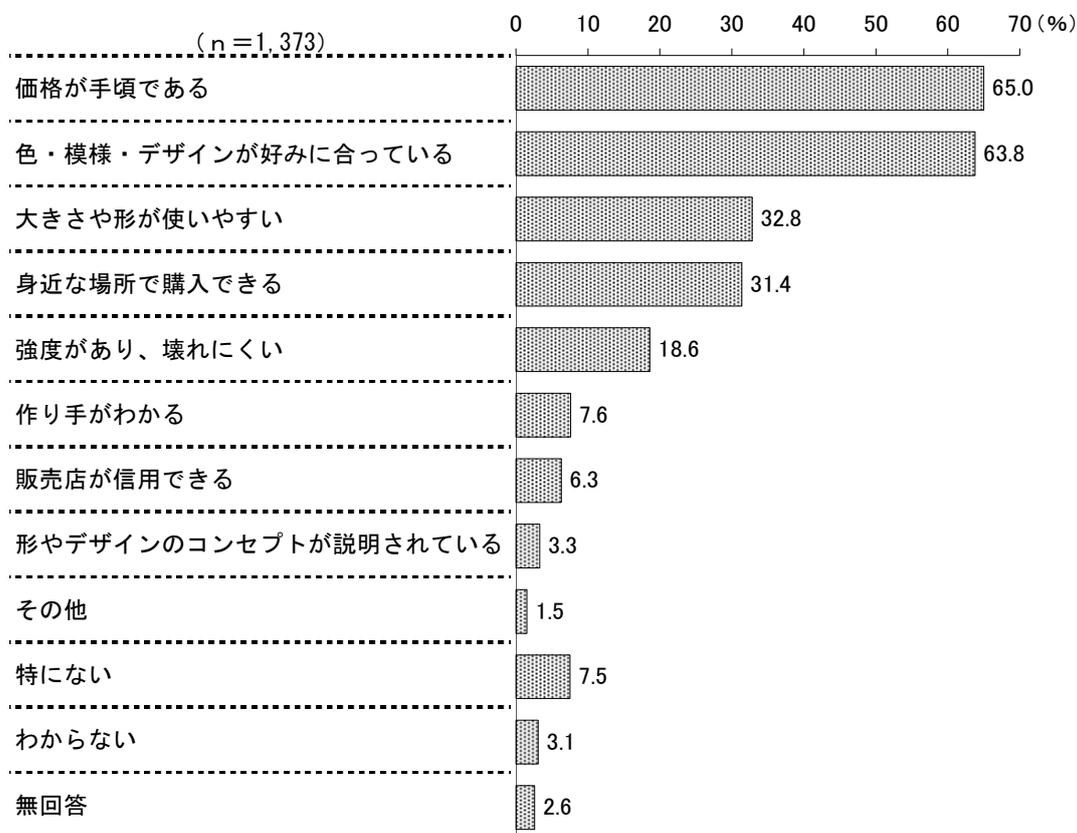
(n=1,373)

- ・全体で見ると、「これまでに使ったことがある」(81.7%)は8割を超えている。「今まで使ったことはないが、今後使ってみたい」(7.1%)と「今まで使ったことはなく、今後使ってみたくない」(4.5%)はともに1割に満たない。
- ・性別で見ると、「これまでに使ったことがある」では〈女性〉(85.2%)が〈男性〉(78.5%)より6.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「これまでに使ったことがある」では〈女性60～64歳〉が94.4%、〈女性65～69歳〉が90.7%と高くなっている。「今まで使ったことはないが、今後使ってみたい」では〈女性20歳代〉が30.8%と高くなっている。

(5) どのような条件であれば益子焼を購入したいか

問38 あなたは、どのような条件等であれば、益子焼を購入したいと思いますか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,373]



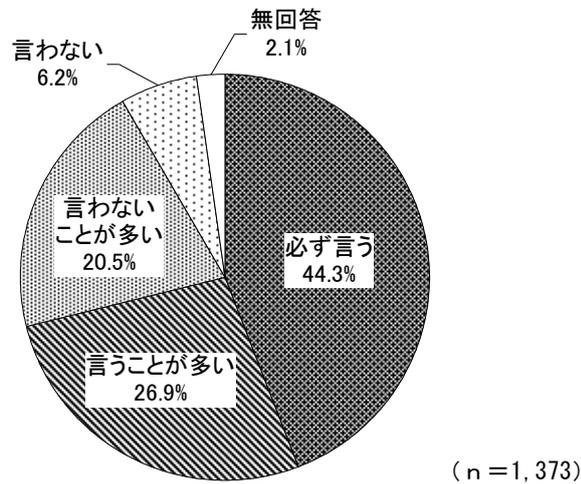
- ・全体で見ると、「価格が手頃である」(65.0%)が6割半ばで最も高く、次いで「色・模様・デザインが好みに合っている」(63.8%)、「大きさや形が使いやすい」(32.8%)、「身近な場所で購入できる」(31.4%)、「強度があり、壊れにくい」(18.6%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「色・模様・デザインが好みに合っている」では〈女性〉(72.2%)が〈男性〉(55.4%)より16.8ポイント高くなっている。「大きさや形が使いやすい」では〈女性〉(38.9%)が〈男性〉(26.9%)より12.0ポイント高くなっている。「強度があり、壊れにくい」では〈女性〉(23.4%)が〈男性〉(13.8%)より9.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「価格が手頃である」では〈女性30歳代〉が90.3%と高くなっている。「色・模様・デザインが好みに合っている」では〈女性30歳代〉が94.4%と高くなっている。「大きさや形が使いやすい」では〈女性30歳代〉が51.4%と高くなっている。「強度があり、壊れにくい」では〈女性20歳代〉が44.2%と高くなっている。

13 食に関する意識と実践について

(1) 食事の際「いただきます」を言っているか

問39 あなたは、食事の際「いただきます」を言いますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 373]

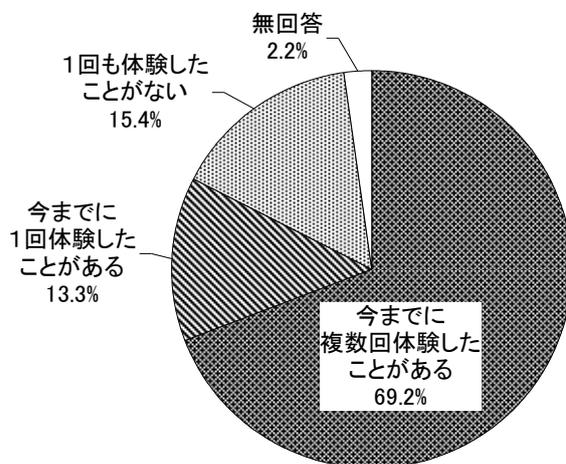


- ・全体で見ると、「必ず言う」(44.3%)は4割半ばとなっている。「言うことが多い」(26.9%)は3割近くで、「言わないことが多い」(20.5%)はほぼ2割となっている。
- ・性別で見ると、「必ず言う」では〈女性〉(50.6%)が〈男性〉(38.2%)より12.4ポイント高くなっている。「言わないことが多い」では〈男性〉(24.9%)が〈女性〉(16.3%)より8.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「必ず言う」では〈女性50歳代〉が58.3%と高くなっている。「言わないことが多い」では〈男性65～69歳〉が31.3%、〈男性70歳以上〉が29.7%と高くなっている。

(2) 農業体験をした経験

問40 あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなどの農業体験をしたことがありますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,373]



(n=1,373)

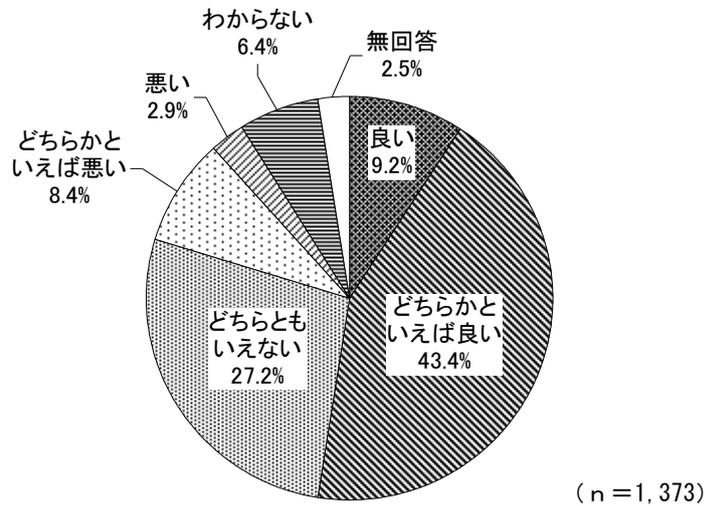
- ・全体で見ると、「今までに複数回体験したことがある」(69.2%)はほぼ7割で、「今までに1回体験したことがある」(13.3%)は1割を超えている。「1回も体験したことがない」(15.4%)は1割半ばである。
- ・性別で見ると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性〉(72.0%)が〈男性〉(66.6%)より5.4ポイント高くなっている。「1回も体験したことがない」では〈男性〉(18.0%)が〈女性〉(13.1%)より4.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性30歳代〉が84.7%と高くなっている。「1回も体験したことがない」では〈男性60～64歳〉が25.6%と高くなっている。

14 犯罪と治安対策について

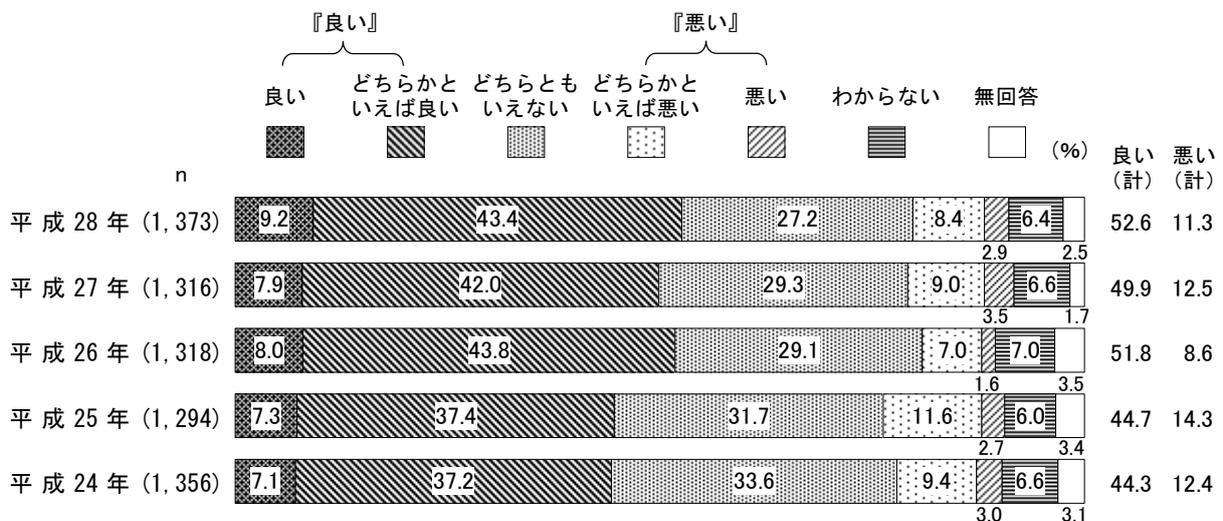
(1) 県内の治安状況

問41 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,373]



- ・全体で見ると、「良い」（9.2%）と「どちらかといえば良い」（43.4%）の2つを合わせた『良い』（52.6%）は5割を超えている。一方、「どちらかといえば悪い」（8.4%）と「悪い」（2.9%）の2つを合わせた『悪い』（11.3%）は1割を超えている。また、「どちらともいえない」（27.2%）は3割近くとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、『良い』では〈男性65～69歳〉が65.0%と高くなっている。一方、『悪い』では〈女性30歳代〉が20.8%、〈男性40歳代〉が18.4%と高くなっている。

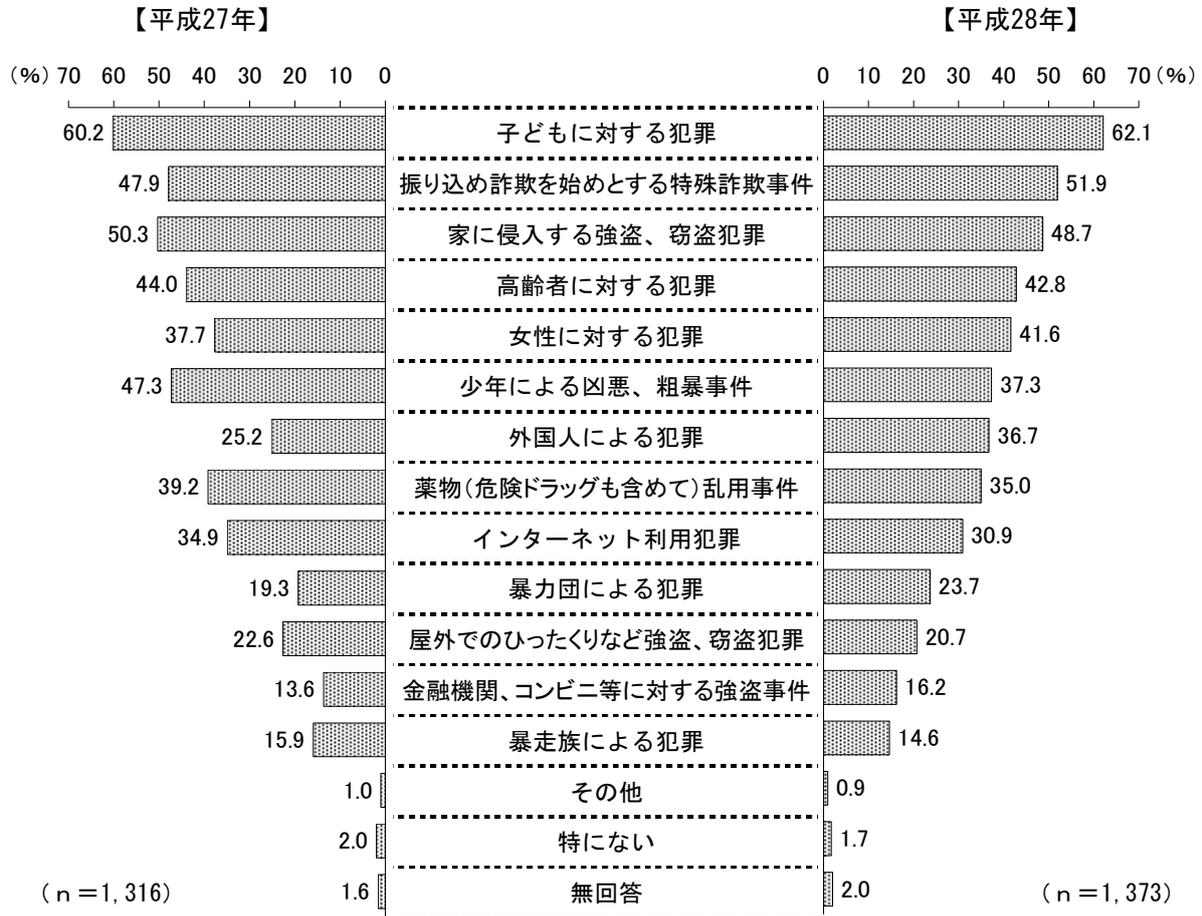


- ・過去の調査結果と比較すると、『良い』が前回（平成27年）より2.7ポイント増加している。

(2) 不安を感じる犯罪

問42 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,373]



- ・全体で見ると、「子どもに対する犯罪」(62.1%)が6割を超えて最も高く、次いで「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」(51.9%)、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(48.7%)、「高齢者に対する犯罪」(42.8%)、「女性に対する犯罪」(41.6%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「女性に対する犯罪」では〈女性〉(48.2%)が〈男性〉(36.1%)より12.1ポイント高くなっている。「子どもに対する犯罪」では〈女性〉(68.5%)が〈男性〉(57.4%)より11.1ポイント高くなっている。「暴力団による犯罪」では〈男性〉(29.7%)が〈女性〉(19.0%)より10.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「子どもに対する犯罪」では〈女性30歳代〉が86.1%と高くなっている。「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈女性70歳以上〉が67.6%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈女性70歳以上〉が61.3%、〈男性70歳以上〉が59.5%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性20歳代〉が63.5%と高くなっている。
- ・前回(平成27年)の調査結果と比較すると、「外国人による犯罪」が11.5ポイント増加している。一方、「少年による凶悪、粗暴事件」が10.0ポイント減少している。

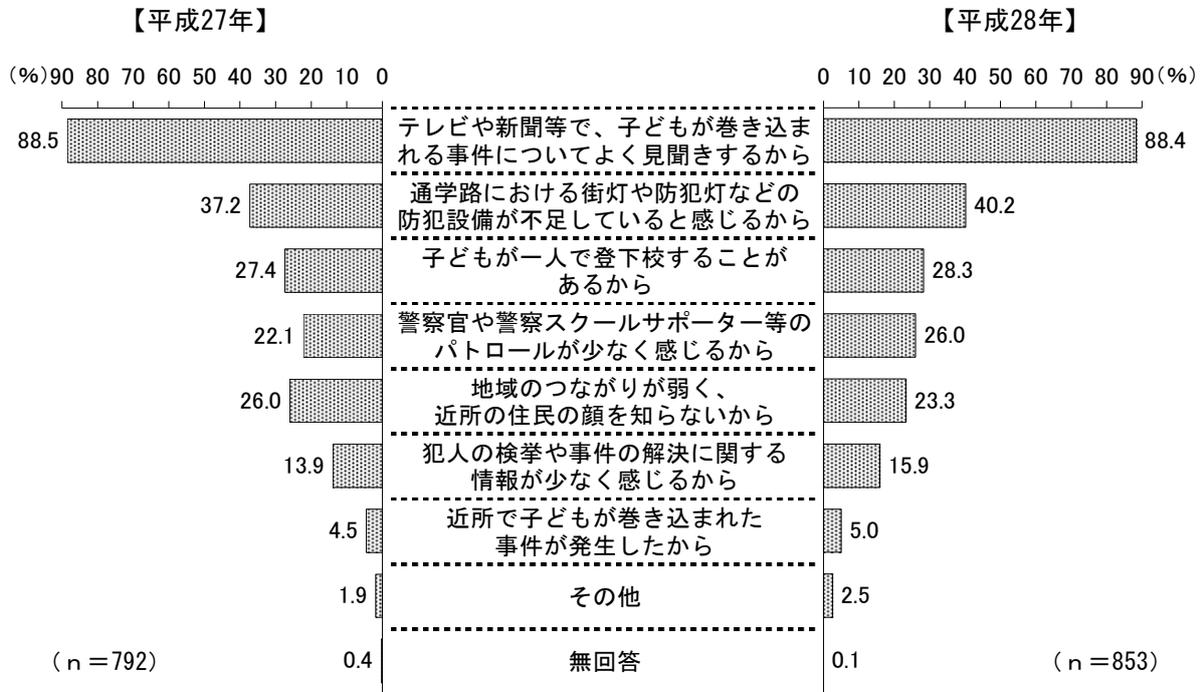
(2-1) 子どもに対する犯罪に不安を感じる理由

(問42で選択肢「子どもに対する犯罪」を選んだ方のみお答えください)

問42-1 あなたが、子どもに対する犯罪に不安を感じる理由は何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=853]



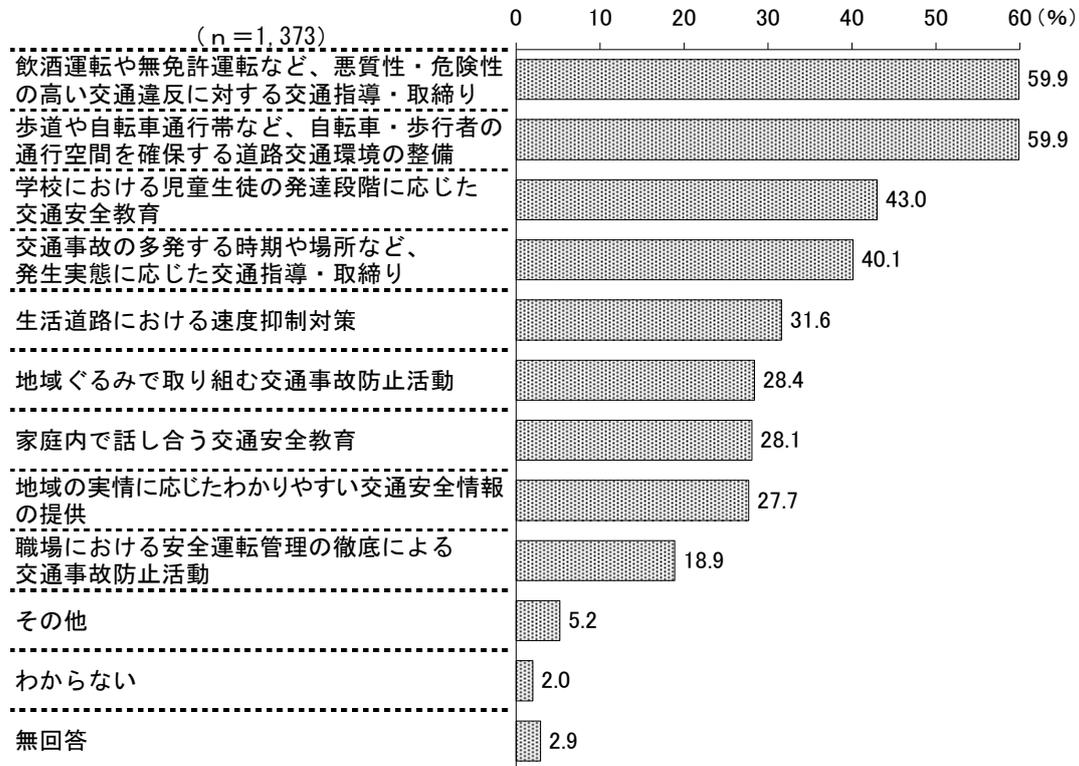
- 全体で見ると、「テレビや新聞等で、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから」(88.4%)が9割近くで最も高く、次いで「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」(40.2%)、「子どもが一人で登下校することがあるから」(28.3%)、「警察官や警察スクールサポーター等のパトロールが少なく感じるから」(26.0%)、「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」(23.3%)の順となっている。
- 性別で見ると、「テレビや新聞等で、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから」では〈女性〉(92.7%)が〈男性〉(83.0%)より9.7ポイント高くなっている。「警察官や警察スクールサポーター等のパトロールが少なく感じるから」では〈男性〉(30.2%)が〈女性〉(22.9%)より7.3ポイント高くなっている。「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈女性〉(43.3%)が〈男性〉(36.1%)より7.2ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈女性30歳代〉が53.2%、〈女性40歳代〉が51.1%と高くなっている。「警察官や警察スクールサポーター等のパトロールが少なく感じるから」では〈男性65~69歳〉が39.0%と高くなっている。「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」では〈男性65~69歳〉が43.9%と高くなっている。
- 前回(平成27年)の調査結果と比較すると、「警察官や警察スクールサポーター等のパトロールが少なく感じるから」が3.9ポイント、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」が3.0ポイント、それぞれ増加している。

(3) 交通事故を抑止するための対策

問43 交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,373]



- 全体で見ると、「飲酒運転や無免許運転など、悪質性・危険性の高い交通違反に対する交通指導・取締り」(59.9%)と「歩道や自転車通行帯など、自転車・歩行者の通行空間を確保する道路交通環境の整備」(59.9%)がともに6割で高く、次いで「学校における児童生徒の発達段階に応じた交通安全教育」(43.0%)、「交通事故の多発する時期や場所など、発生実態に応じた交通指導・取締り」(40.1%)、「生活道路における速度抑制対策」(31.6%)の順となっている。
- 性別で見ると、「家庭内で話し合う交通安全教育」では〈女性〉(33.0%)が〈男性〉(23.8%)より9.2ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「飲酒運転や無免許運転など、悪質性・危険性の高い交通違反に対する交通指導・取締り」では〈女性30歳代〉が76.4%と高くなっている。「歩道や自転車通行帯など、自転車・歩行者の通行空間を確保する道路交通環境の整備」では〈女性30歳代〉が70.8%と高くなっている。「交通事故の多発する時期や場所など、発生実態に応じた交通指導・取締り」では〈男性20歳代〉が55.9%と高くなっている。「生活道路における速度抑制対策」では〈男性70歳以上〉が44.9%と高くなっている。

平成28年度

栃 木 県 政 世 論 調 査

結 果 の 概 要

平成28年10月

栃木県県民生活部広報課

宇都宮市塙田 1 - 1 - 20
電話 (028) 623-2158